

昭和四十年九月二十九日招集(第2号)
第三面市議定会定例会會議錄

館山市議会第三回定例会会議録(第二号)

昭和四十年九月招集

一九月二十九日(水曜日)

一 議事日程(第二号)

第一 通告質問

第二 議案第五十七号

館山市表彰条例の制定について

第三 議案第五十八号

条件付採用取員及び臨時的任用職員の制限に関する条例の制定について

第四 議案第五十九号

館山市婦人会館使用条例の一部を改正する条例の制定について

第五

議案第六十号

あらたに生じた土地の確認について

議案第六十一号

あらたに生じた土地を市の区域内に編入することについて

第六 議案第六十二号

館山市交通安全都市宣言について

第七議案第六十三号

館山市教育委員会委員の任命について

第八議案第六十四号

館山市公平委員会委員の選任について

第九議案第六十五号

昭和四十年年度館山市一般会計補正予算

議案第六十六号

昭和四十年年度館山市国民健康保険特別会計

補正予算

議案第六十七号

昭和四十年年度館山市休養施設特別会計補正

予算

議案第六十八号

昭和四十年年度館山市館山ユースホステル特別会

計補正予算

議案第六十九号

昭和四十年年度館山市上水道事業特別会計補正

予算

午前十時五分

開議

議長(田中祿郎君) 本日の出席議員数 二十六名

これよりオ三回市議会定例会オ二日の会議を開会いたします。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行ないます。
日程オ一通告による行政一般質問を行ないます。

通告順序により二番議員 江田徳太郎君

(二番議員登壇)

(拍手)

三番(江田徳太郎君)

私は観光開発に伴い隣接町村を合併促進する意思はないかという質問をお願いするものでございます。これは本市におきましてはどうしても観光開発をオ一にするものかよろしいと考えておるものでございます。

それに伴いまして観光開発をしたならばどうかということから三回本提案をいたしましたのでございますが、私は観光開発

に地理的条件がやはり必要ではないかと思ひますので隣接町
村と申ししましてもいろいろありましようがオ一番に本市といたし
ましては今富浦、三芳と水道組合を行なっております。
また三芳とは伝染病院という組合立の交流をはかり合併に
は一歩進んでおる形態をととつておるように考えられてお
ります。

その地区の有志ともときどき話し合ひをしたこともござい
ます。個人的には話し合ひをいたしておりましたが、今回去る十
日の千倉町におきまして、房州地方公域行政会議という会議
が開かれましてその席上オ二次市町村合併問題が取り上げ
られました。

安房郡を鋸南、朝夷、長狭という三ブロックに分けまして、都
市郡市で四つ市を作るといふようなことを申し合はせたと聞
いております。

そのときに当りました大館山市観光都市を作るのには、
地理的にもう一步のばしてどこまで合併促進をしたらどうかと
いうことを市長さんにお願ひするものでございます。

私の考えますところによりますと現在本市におきましても海岸
線からみたときに大房から西岬までみまると北条の海岸を中心
として観光にふさわしい何かできるものではないかと思ひます。
また有料道路も近々うちうちに完成すると聞きます。

白浜はご存じの通り今は館山市より観光面におきましてしつ
く観光地となっております。この土地も本市の隣りでござい
ます。

こういう形でございますので私の考えではぜひとも白浜も館山
市に加入を希望するものでございます。私白浜に知人がござ
いまして町会議員でございするが話したときにとつて
も白浜町だけではどうにもならぬ、実際は館山と手を組ん

で観光開発したならばお互いにいいということも聞いてあります。とうとうときに当りまして今回の郡市のこの広域行政会議の席上のプラスがこういう面につきまして幸いしてあるということも考えられます。なかなか合併につきましては困難もございましてつが合併につきましては今まで体験されてあることでもございしますので、これはぜひとも市場さんのお力におきまして何とか合併促進の機を熟されるようにして、館山市の観光開発するよう希望しておりますが、市長さんにお願するものでございます。

オ二にお伺いしますことは学校建設計画が考えられていると思ふが、特に北条小学校の移転建設はその後どうなつてあるか、進展してあるかということをお伺いするものでございます。

これは先の議会におきまして私は計画変更のときに市長さんにお伺いしたことがございましたが、私の聞くところにより

ますと市有財産を売買にかけたということが何かわれるの
でございます。なせならば値ぶみしてある東京の会社に売り
渡しの際の値段の話しまでしてその会社は値段の折り合いが
つかずに現在まだ残されておる。市長さんはその点におきまして
話してあるかないかお伺いするものでございます。

議会といたしましたは私はまだ聞いておりません。市の市有財
産を無断で値ぶみしてやる。他人の財産を売りにいくということ
がいかわるいかこの点をお伺いするものであります。

どうしてその実態を調べてみますと農地委員二人を頼み
そうしてその委員もしまいには手を上げたということを聞いて
おります。どうしていいか、わからなくなつた。また一方では会社が
買ったならばぜひ売るからというふうなことも聞いた。百坪・五
十坪・二百坪と切つてある周旋屋に買い手の申し込みが
きております。

こういうように市の財産を売りにたまつてしまつていかということがオ一に申されるだらうと思ひます。

北条の学校にいたしましても別に移転に迫られてどうしてもこうしていかなければならぬという市の考えもないときになんということが打ち出されましてどこからどういうあれでいつたか私ばかりませんがお伺いをするものでございます。

学校の建設は早く計画されて逐次鉄筋化を考へておることでございましょうが市長におきましてはこの点をどうぞ計画くだされましてぜひ鉄筋化をお願いするものでございしますが、現在の北条の学校は話が先に申しましたように市長さんのはからいであるか、学校側のはからいであるか、お聞かせ願ひまして移転建設になるのか、ならないのか、はっきり伺ひまして、そうして今後の計画を立てて進んでいただきたいと思ひましてこの提案をした次第でございしますので御答弁をお願いしたい

と思います。以上でございます。

(市長登壇)

・市場長(本間譲君)

江田議員に対しましてお答えいたします。

観光開発に町村合併を促進する意思はないか、こういうことでございますが、御承知のように、館山市は天与の気候と自然の風景に富んでおりまして、観光を主眼として施策がかかげられておるわけでございまして、ことに海岸線を同じくする富浦、あるいは白浜というところは観光の面からしましても非常に重要でありますし、また三芳町等は農村地帯としましてやはり一つの食料源でもありますし、きわめて密接な関係があるわけでございますが、こういう観点からしまして、隣接町村の合併ということは私も実は考えておるわけでございます。

近年広域行政、こういうものが叫ばれておりまして、果ても国で

も奨励していろいろ共同施設をして住民の福利をはかつてお
 るわけでございますが、館山市におきましても御案内の
 ように三芳、富浦とは水道組合を設置しまして水道の
 排水計画を立てておりますし、なおまた三芳とは伝染病の
 組合をやっております。非常に密接な関係があるので私も
 三芳からも富浦の一部からも白浜方面からも合併の希望が
 あるということとは聞いておりますがこれは時代に即応した
 当然のことではないかと思っております。しかしながらいざ
 合併ということにはなりますとなかなか地域住民の感情と
 かいろいろの面がございまして、今ただちに踏み切るといふ
 とはまた検討中でございますがいずれにしてもなりゆ
 きによりましてみなさん方と特に相談しましていろいろ
 う時期がきましたら促進をしたいと考えております。が
 どうぞみなさん方におかれましては機会をとらえまして、

御検討おきをお願いしたいと思つたわけでございます。

北条小学校の問題でございますが、北条小学校の土地を売つたり、いろいろな話がございましたけれども、これは、私は全然関与してございません。

北条小学校の改築期成同盟会、この会の方々がある建設会社ですか話し合ひをしておるということを知つておりましたけれども、もまだもちろん具体的にばいつておらないと思ひますが、学校の敷地を売るとか何とかということとは初耳でございますが、市としてはまだ全然正式な話しも聞いておらないわけでございます。

それは同盟会の方々が話し合つた程度ではないかというふうに思つております。それから北条小学校の建設につきましては、三十六年度の建設計画によりますと、五年目の本年が、建設する年になつておるわけでございますが、これをいろいろ

いろ教育委員会なんかで検討してみましたが、現在の
 の危険校舎の坪数が少い百坪位で生徒数からしまして補助
 の対象にはまだならないというわけでありまして、従って起
 債とか国庫補助が現状においては得られないということでご
 ざいますので、今すぐにといいわけには参らない状況で
 ございます。しかしながら四十二年にまた査定があるとうで
 すから、そのときを待ってみるほかはないんですが、私は考
 えておりました。しかし北条小学校の建築につきましては、大
 きな関心を持って検討を考えておるわけでございます。以
 下でございます。

二番(江田徳太郎君)

ただいま市長さんのお答えをいかにございまして、オ一
 番の合併の問題でございますが、私の考えた通りで、市長
 さんもお考えになっておるというように聞かされたので、

するが、今回の郡市の申し合わせの協議会もあったことであるし、この機会をはずしてはなかなか合併の機会も困難になると思いますので今後何かの機会を得まして、各町村との話し合いの会といいますか何か作るという早急にということもむずかしいと思いますが、打ち出すお考えになつて促進するということをお願いできますか。

・市長(本間譲君)

このことにつきましては市としてもよく検討しまして、まだある成案を得ましたならば議員のみなさん方ととくに相談して参りたいと思います。

・三番(江田徳太郎君)

了解しました。それでは学校問題の方でございますが、ただいま聞きますと今回の学校の話しにつきまして、市長さんがある程度までお考えがあつたことだと思つておりましたが、で

存じないで、期成同盟会を作ったということはお聞きしますが、この会は移転新築というものに対する期成同盟会であるか、現在のところにて建てなおすためだけの期成同盟会であるかをお伺いするものであります。

市長（本間謙君）

これは現在あるのを建てなおす期成同盟会と私は思います。それから先ほど会社が請け負ってやるという話でございますが、この話しも私も正式でなく聞いておりますけれども、会社がやってももうかる仕事ならば会社にやらせなくても、市がやった方がもっと有利ではないかと自分では考えております。また、これが当然、われわれの責務であると考えております。

二番（江田徳太郎君）

もう一つ伺いますが、先ほどちょっと申し上げましたが、市有

財産である土地を売りにかけたということは、どこに責任があるかということをお伺いするものでございますが、その点はどうですか、

市長（本間譲君）

私はこう解釈します。期成同盟会の方々がどうしたらいいかという検討をするため、どういふことをやうていどういふだろうと思っておりますが、ゆるい意味ではないと思います。それでいい案があれば市の方についてくるのではないが、また私の方も検討しようと思っておりますが、私は根本的にさっきも申し上げましたように営利会社がやうていものなら、市ならもつとやれる点が十人あるのではないかというふうに考えております。あまり私としてはその問題については乗り気ではないのが現実でございます。

三番（江田徳太郎君）

今の問題でございますが当然もう会社にできないのではないかとこの考えと期成同盟会も今の売買の点は打ち切ってもらつてそれは当然考えられないということにして新規の計画を立てて、今度四十二年には査があるということに伺いましたが、●という点につきまして計画を立てられることを私は希望いたしましたして、この問題につきまして了解いたすものであります。

議長(田中祿郎君)

二二番議員 君塚喜三君

(二二番議員登壇)

二二番(君塚喜三君)

君塚でございます。まず青掃行政についてお尋ねしたい。私がこれから御質問申し上げる点の多くの点については、すでに私的においてあるいは議会事務局を通じて

お尋ねをした。だが釈然としないものが多くの点がある
のでまだ責任ある言葉を望みます。なのであえてここに通告
をもってお尋ねをする次才であります。私のこの通告文
面は簡単ではありませんが、容易に御判断がついたことでしょう
し、時間的にも十分な余裕がありましたので、答弁内容もよく
整理されようと積足のいく御答弁が得られるものと期待す
る次才であります。まず才一点としまして、前回の六月定例会
で清掃条例の一部を改正し、尿汲み取り運搬手数料、並
通いところのし尿汲み取り料金について、従来の重量制を
人数制に切りかえた。もともと一般家庭についてでは、ありま
するが、またその際、汲み取り業者の地域も指定した。しか
も昭和四十年七月一日から実施する旨を市民に回覧を
もってさらに市広報百六十一号をもって、その周知徹底が
はかられたところであります。ところでこのことはし尿汲み

取り業者のわけでも従業員の出先における不当の汲み取り料金のすい上げを防止するため行政処置であつたはずであります。汲み取り業者の地域を指定することにおいて各業者をしてどう受け持ち地域における責任の確立と含めて市がこれに対する行政指導と監督の徹底を期しなすであります。また市長の諮問機関である清掃事業審議会の答申に基いて提案され市条例の改正が議会において可決をみた権威ある決定であつたはずであります。ところが三月の経過をみた今日いまもって規定料金が守られていない。市内至るところで非難ごうごうたるものがあるのは一体どうしたことか。各業者をして受け持ち地域について責任を持たせ、市の行政指導と監督の徹底を期するたためという美しい言葉の業者に対する地域指定がサービスの低下、不当料金すい上げに拍車をかけたとする

強い非難でもかえられた現実をどう考えるか。私は現時点
におけるし尿行政は市の権威を全く失墜するものであると
断ぜざるを得ません。これについて過渡期だからやむを得な
い位に考えこれに対する行政処置を怠っているかと思う。

本日の地方紙にも大きく取り扱われておりますが、私も
ここで不当料金の実態と地域指定に対する批判の声を
聞きます。私はあまりに諸々で聞く非難に一般家庭三十数
軒に一つで当ってみましたが私が当った限りでは規定料金が
守られた家は周辺に一件もない。みな多かった。しかも七月、八月
九月と料金が異なっておるのが多くたまたま規定料金かと
思えば二回について規定料金にする額が取られておる。
しかも残念なことにとれらる家の大半について領収書が
出されてない。でも安い中にも何軒かはあった。私はここ
での領収書を持っております。この領収書をみただけで

もいかに不当のものであるかが伺がえるかと思ひます。

しかも料金が違ふのではないかといへば七月には六月分が含まれてゐるから今まで通りだ。八月には観光客が多いから来月だ。九月になれば来月からだとその準備ができていないからとかいふときと違つたことがいわれてゐる。中には市の収み取りは二十日一カ月であるとか、不精ながらあとを恐れて支払われてゐるありさまであります。それにむき直して地域指定は不当である。その声の代表的なものを述べたらはこれまででは収み取り時期がくればいかかですか。収み取りをしようかといふ業者からきて収み取つてくれぬだ、ところが今は電話をかけなければやってきてくれぬいあるいは電話をかけてもなかなかきこてくれなくなつてしまつたという。これは他の業者に収み取られておとくいを取られてしまふ心配がなくなつてしまつたからであります。

またある業者に頼んだところが電話を四回五回かけても
きてくれない。今度は違った業者に依頼をした。ところが電
話一つできてくれた。とうして我み取ったあとをきれいに水を流し
てくれた。今回また元の業者にかわってしまった。ところが料金は
前よりより水を流してくれない。とにかくこれまで高かったり、
サービスがわるければ他の業者になおることまでできたが、それが
できなくなり業者のために市民を犠牲にするのかとさきん極
論した。ともあれサービスの低下は間違いない事実であります。
不当料金に拘束をかけたのも事実だ。これは一般家庭だけで
はなく重量制適用家庭においても同じことがいえると思いま
す。私の言葉にいつわりがあると思うならば市はすみやかに
公聴会を開いて、現在の市民の声を聞いてみるのがいいので
あります。市民は本来ならば業者を選ぶ自由があるはずだ。
それを地域指定にして規制する以上、市はそれだけに責

任を痛感するべきではないか、ともあれ主管課に対しては、本
制度実施以来相当数の苦情がきたことと思うが、その実態を
確認の上にどのような行政処置を取ったか、今後この苦情解消
のためにさらにどのような処置を考えているのか、このような実
態をまねいた本制度の欠陥はどこにあるか、また検討してみた
ことがあるか、まずもう主管課長の答弁を求めます。以上
清掃行政についてのオ一点についてお尋ねいたします。

次にオ二点といたしましたして汚物取り扱い業許可基準につい
てお尋ねいたしたい。憲法オ二二条で「何人も公共の福祉に反
しない限り職業選択の自由を有する」としてある。すなわ
ち職業選択の自由は憲法に保障された基本的人権である
といふも、公共の福祉に反しない限りという前提にうたつて
あり従つて汚物取り扱い業のように公益度が高くその運営
如何では公共の福祉に大きな影響を与える職業については、

法の定めに従つて規制のあることもやむを得ないとこゝろで
あると思います。この職業につかんとするには市長の許可を
必要とするのもよくあると思ひます。しかしながらこと其本
的入権につながる問題であるだけにその許可申請の取り扱
いについては慎重を基期さなければならぬと思ふのであります。
いやしくも情実などによる不公平な取り扱いがあつてはならぬ。
そのためには許可基準あるいはそれに準ずるものがなければな
らぬと思ひます。そこで今年一月十八日に許可申請した上真
倉長谷川善雄に例を取つてその取り扱いをどのようにしたか
を聞きたい。合せて那古の武田喜一郎氏の営む那古船形、
清掃社に対して八月が更新期と聞きましたか、その取り扱いを
どのようにしたかを聞きたいのであります。

又三点といひまして衛生処理場搬入手数料の取り扱いにつ
いてお尋ねしたい。十石三百円という搬入手数料において昭和四十

年六月三十日における手数料帯納額六十九万八千五百八十円、昨年の七月一日以降すなわち市の行政事務の合理化能率化の看板に行なわれた事務改善以降において、このような実態をみたことは打ち出された事務機構の中に検討すべき余地ありと思うがどうか。なおこの点は会計監査委員の会計対象事項であります。これまで、改善方について強い指摘があったと思うが、これが対策としてどのような行政措置を取ったか、三十九年度・年度末における帯納額は幾らか現在の帯納額は幾らか以上か三ポイントとしてお尋ねをいたし、清掃行政に反映しての質問を二応打ち切りあとは再質問によってお尋ねしたい考えであります。

次に城山の観光施設について次の建設計画をお尋ねしたいのであります。昨年三月の定例市会において里見氏居城復元積立金条例が廃止をされた際、完成までに二億から

三億を要するこの青字直示を示しては必ずやります。先展的
廃止と思つてくれとの力強い決意のほどを述べられたのであり
ますが、どう一つとしてこのほど立派な展望台の落成をみたこ
ろであります。次の建設計画を知りたいのであります。
地元観光協会では二百万円の寄付集めを完了してこれの
使用を待つてゐるありさまであることを付言いたします。以上
明確な御答弁を望みます。

衛生施設課長(吉田耕一君)

二三番議員さんの通告質問に對しまして私の方からお答え
申し上げたいと存じます。

オ一点のし尿の汲み取りにつきましては今回の改定におきま
す諸点についての御質問のようでございますが従来のように
各家庭あるいは事業所ともに重畳制を実施しておったわ
けでございます。しかしながら各住民の意思を十分聴取い

たしましてどうしても重量制ではやはり金額的にも料金の不正があるというような意見もあるわけでございまして、他の市の状況等も一応調査検討したわけでございまして、そうした面を解消していくというような観点からいたしまして一般家庭につきまして入頭制に改めていくというように、ことによりまして従来の基礎単価を持ちまして、それを基礎として入頭制の料金に改めたわけでございします。七月一日から均等制を実施したわけでございします。先ほども御質問にございましたように私どももできるだけの趣旨の徹底PRに努めたわけでございますが、現在に至りまして、ただいま御指摘のようないろいろの点におきまして、まだ十分徹底しておらないというような点、が事実あるわけでございます。そうした面につきまして、私どももできるだけ早く目的に向って進めていくというふ

うな方法を購じておるわけでございます。が、たまたま七月
一日の改定が夏季に向ったこと等からいたしましてまた
新しい地域指定等から多大の御迷惑をかけておるわけで
ございます。業者に対する趣旨の徹底ということも確かに
欠けておったということを感じざるわけでございますが、私ども
そうした面の反省をいたしまして始終業者を呼びまして、そ
うした問題点を取り上げまして検討を加えておるわけでござ
います。一日も早く目的に備向うこの収み取りを実施して
いくというふうに努めておるわけでございます。

最後に一番の問題点でございます。そうした面の行政措置
と令やせまして今後、市はどういうふうな考え方でこれを道や
るのかという二点につきましてお答え申し上げたいと存じます。
大体今までの行政措置というような点でございますが私ども
みなさん方の御決議をいたしましてその線に向つて現在

もやっておるわけでございます。しかしながら個々の家庭への徹底ということは相当困難でございます。しかし困難といつて実施しないわけに参りません。今後は私ども業者の出先と申しますか、企業をされる方々とも一諸になりまして、そうした地域を回りまして、御期待にしようような行政を取って参りたい。このように考えておるわけでございます。なお各家庭からの御指摘等につきましてもすぐに全部の徹底は困難であるというふうな関係から各家庭にもお願いいたしまして住民と業者市と三者一体となつて御協力願つてこの事業を目的通り進めていきたいというのが最初からの願ひであるわけでございます。市だけ業者だけでこれの完璧を期すといふことはできないわけですが市民と業者と市と一体になつて進めていきたいと現在考えておる次第であります。

四つ目におきましては、汲み取り料につきましては条例の定めたる額を上回つてはいけぬのだという大きく四つ分けておるわけでございますが、その他許可の条件といたしまして市民の汲み取りの要求には事由のどうこうを問はず、汲み取らなければならぬのだということと市外のし原は処理場には投入してはいけぬ、ということとあつた構造物等でございますので、(一)に備へまして自己の投入場を持つていふこと、こうした面を許可の一つの基準といたしまして現在進めておるわけでございます。なお細かいいろいろのその他条件等につきましては、規則に定めまして、申請書の内容に、くわしくまだ細かく組んであるわけでございます。このような基準に基きまして、熊山市の現在の汲み取り世帯数、人口というふうなものに対して、果してどの程度の業者が必用であるかというふうなものを十分考慮いたします。

て許可の基準といたしておる次第であります。なお先ほどの長谷川さんの取り扱いという点でございますが、長谷川さんにつきましては最初武田重一郎さんの那古船形清掃社の従業員として武田さんの方から出ておたわけでございます。その結果によりましていろいろ御意見がございまして、私ども業者を呼びましてなおそうした話題に上りまされた方も、いろいろ状況を聞いたわけでございます。結局武田さんの船形清掃社の従業員であるということを確認したわけでございます。しかしながらその後いろいろな不明瞭な点を伺ったわけでございましてその後におきまして私ども武田さん本人にもお会いして内容を伺ったわけでございます。そうしましたところおう方でも名前には申し上げないんですが、一応手を切りたいという御意見でございましたので、そのまき

を本人に伝えたわけでございます。その間におきまして長谷川さんの方から申請がためけでございます。その申請を却下いたしました理由といたしましたは、ただいま申し上げました許可基準に合っていないということがあるわけでございます。その許可基準めどれにも合っていないわけでございます。車の入らない場合の地域性をどう処置するかという点等にも合っていないわけでございます。そういうものは取れないのだということから住民の要請にもこたえられないのだという結論からいなしまして私どもはそれを却下いたしました。おたがひであります。それから武田さんの切りかえの申請の問題でございますが、これは確かまだ出ておりません。今那古船形清掃社につきましても督促もしまして今月中に提出なき場合にはなきものとして認めろのだというふうな連絡を取ってあるわけでございます。今月中にその

処置の決定をしたい。このように考えておる次第であります。

次の処理場搬入手数料の取り扱いでございますが、この取り扱いにつきましては現在のところ条例に基きまして、右の単位といたしまして条例で三百円ということを手数料を徴収しておるわけでございます。この徴収方法につきましては処理場に参加しますと処理場におきまして複写式の通知書を業者の一部上げまして市で一部控えとして取っておるわけでございます。これを一月ごとに業者別にまとめまして市民課の方に報告をしておるわけでございます。市民課はこれに基きまして条例単価によりまして納付書が発行されるわけでございます。そうしてその納付書によりまして金庫に納入していただくこととでこの処理をいたしておるわけでございます。しかしながらいろいろ

めんどうな過程等もあるやに伺っておりますわけでございます
して、現在納入取り扱いにつきましてもっと簡便な方法で
お互いに行き渡る方法はないかというようなことで私ども検討
を加えておるわけでございます。その方法といはしましては
従来やっております証紙の制度を採用していくかあるいは
前売りのチケット制を採用したかどうかというような二点の
制度等につきまして現在関係課といろいろ検討を加えて
おるような状態でございます。しかしながら現在の取り扱いにつ
ましては前段で申し上げましたような方法で料金の納入をして
いただいておりますわけでありませう。

最後にもう一点でございますが三十九年度におきましての
滞納現在額でございますがはっきりと私記憶しております
せんですがあとで収納課長の方からお答え願いたいと思
います。約十方ちやうどだと記憶しております。細

かいはつきりした面につきましては収納課長の方からお答えを
えをしていただきますと思います。

。収納課長(多田健俊一君)

清掃処理手数料の滞納額につきましてお答え申
し上げます。

昭和三十九年の四月から事務改善をいたしまして、大体納
期に入つたものにつきましては市民課の方で扱っておりま
すが一応滞納分は私の方に回つてきております。それによ
りまして私の方では滞納整理をいたすわけでございます。
す。私の方に市民課の方から滞納分として督促状の出
たものがきております。御承知の通り私の方といたしまし
ては税金とそれから保険税を中心として徴収員がやってお
る関係で税外歳入関係におきましては多少手回りが
きれなかったということもございます。

三十九年度の出納閉鎖の場合約五十万清掃手数料として残すおろめけでございします。それにつきまして私の方といたしましても滞納し過ぎではないかということで極力滞納各業者に交渉いたしまして滞納整理をいたしたわけでございます。現在衛生施設課長が申しましたように大部分の整理ができました。あと十方位滞納になっております。これも近く整理をみるという段階になっております。以上御説明申し上げまして御答弁といたします。

(市長登壇)

市長(本間議君)

君塚議員さんに対してしまして、城山開発のことにつきましてお答えします。

観光館山にとりましては城山はもっともいいところでございまして、これを開発することはとなたでも賛成してお

うれるわけでありまして私も城山を館山市の観光の
 シンボルとしていきないう考えを常々持ておるわけ
 でございます。しかしながら観念には観当計画が大きなもの
 かできておるわけでございますがなかなか市の財政事
 情もありますしまた他の資本家を誘致するということ
 をやたんですがなかなかいろいろ条件でうまくいかないの
 でございますが今後この点につきましても骨を折って
 みたいと考えておるわけでございますしてとりあえず花
 の名所として城山を開発しようということで昨年はつ
 づきを三千本位植えましたし椿を二百本ばかり植えて
 おるわけでございます。何にしましてあの山には水がござ
 います甘せんのでせっかく植えた椿にしてもつつじにしても
 なお非常に水に困りまして発育もうまくいかない面がござ
 いますして近いうちに水の施設をしようということで大体百

五十万から二百万をかけまして水利の施設をしてせうかく植えたつじ椿を立派に育て上げようというふうに思っておりますが、また水がないために土壤ですか土壤の改良もできないわけでございますが水利施設をいたしまして、そういう面についても考えていきたい。それから経済事情もございますけれども児童の遊園地を造成しようそれから便所の増設もしようと考えております。また郷土館の建設におきましてもすぐにやるという段階ではございませんがやってみるに、検討したいというふうに考えております。とりあえず水利施設を本年半に行なうていきたいというふうに考えておりますが経済事情が許せば市の計画を立ててあることも実行してみたいと思っておりますがこれらにつまましては、いろいろな検討して参りたいと思っております。

。三三番(君塚喜三君)

再質問の数が多過ぎましてどれから質問していいかわかりませんかたがいま衛生施設課長から御答弁をいただきますまして私が述べたことを繰り返していただいたようなかっこうで、私はこれこれについて御回答を願いますといったところの点かまるっきりぼやけてしまつておつたように再質問していいか困る状況でございますがまず清掃行政の才三点の関係でございまするがただいまの御答弁で三十九年度年度末におけるところの手数料帯納額が約五十万程度、こゝろ大きな帯納額について四十九年度予算書に過年度収入金として記載かなというこゝろにつきまして昨日私的に問い合わせたところミスをしたとのことだった、このような大きな額が予算書に全然盛られていない従つて手数料の帯納令についてはおとろくみなさんご存じないのではないかと思つた、兎ほども私これまでの

額に達するまでについては会計監査手員の強い指摘もあつただろうと思う。その強い指摘に対してとういう処置を取つたかとうことを聞いても何のお答えもない。木更津のし尿処理場でもチケット制でやっておる。こういう方法が取れたはずだ。市の条例におきましても「手数料は毎月または毎期に定めた場合は毎期に市長の発する納額告知書により納入しなければならぬ。ただし市長が納額告知書以外の方法を定めた場合はこの限りでない」とうたつておる。条例の改正もいらない。なぜこのような処置が取れなかったかとうことを私は不審に思う。なお私がこの点について先ほど申し上げました。四年六月末の滞納額約六十九万八千円とそれがたゞいまの御答弁によりましては十萬単位に減少した。わずか一カ月半の間にこれだけ多くの滞納が整理されておる。その労は多とします。その御努力に敬意を表しますが、しかしひるがえ

て考えますならば、やれはやれるものが三十九年度の会計年度を過ぎた出納閉鎖期を過ぎた今日までなお、おりにしてもきびしく取り立てておる反面なせ、このようないことがなされておるのか、何にか、この点に不審を考へる。「くさぬものにはふたをせよ」ということめが通りにふたをのせよ、ということかも知れませんが、六十九万八千五百八十兩という手数料は取り扱ひ石数にすると何と二万三千二百八十六石に當る、私の計算に間違ひがない、また市の取り扱ひ石数を除けば三十九年度は三万五千八百九十四・五石約三令の二に相當する手数料額である、昨年四月一日から六月末までの取り扱ひ石数にしても四万九千五百六十五石約半令に相當するではないか、こういった額が滞納になつておるにもかかわらず、半年度予算書にこれを記載することゝミスした、今回のものは

入ってきた。どこへ入れたか新しく設けていれなければい
れるところがないでしよう。あまり一つではないか。

次に私はオニ点にヤカ上って質問いたします。許可基準
についてということでしょうかと御説明を拝聴したわけであ
ります。その許可基準の上で立って上真倉の長谷川善
治氏が許可申請を出した。それをどのように取り扱ってあるの
かという一つの事例をもってお尋ねしたわけでありま
す。かお答へでは一月十八日に申請書を受け付けて四月二
十日に却下しておる却下したということに間違いないま
せんか。私の調べでは当人に対して一時保留をするという書
面以外についておりません。一時保留するということは却下
ということになるかと思ひます。その点をはっきりしてから
次の質問に移ります。

衛生施設課長(吉田耕二君)

四月に却下して保留という関係は全然ございません

三二番(君塚喜三君)

私は本人に直接会って確認したところであります。それが
 ペニで走り書きの一時保留ということしか向こうではもらって
 ありませんということなんです。いずれははっきりすることでは
 ございますが、そういうものはおそらく写しがあることと
 思います。ですから先ほどいいましたように、基本的人権を現
 制する本人の死蔵話の問題である。当人は非常に貧乏しい
 家庭の中で、月賦で百三十万円のプリウス十石庫を購入して
 それでこの許可申請を出してきた。それについては石井敏
 雄とやはり同じく上真倉の同僚と共同作業としてしかも
 車庫については石井氏の庭、これを車庫に指定して申請
 をした。この実態をみましたが、車庫というて屋根を作ら
 なければ車庫ではないという解釈ですか、そうだとしますと

現し取扱い者の中にもどういったものがあるように記憶しております。

それから先ほど自己投入所を構えていない。何のために市は衛生処理場一億もかけて建設なさいましたか。しかも現在佐野海岸には投入所があるではないか。それは個々のものか。そうではない。一つも該当してはいないとあなたはおっしゃっておるけれどもちんと基準に当てはまっておる。しかも長谷川善治氏は武田喜一郎氏の那古船形清掃社の看板を借りて一日百円の看板料を支払って実際はやっておる。現在鈴木という人と二人この武田氏の従業員ということになっております。それだけでも現にやっておる鈴木氏と長谷川氏は先だてやめました。どうしてもやることか。で五十五万の借金をしよってやめておる。現在那古船形清掃社者には二五五車です。あなたは一台しかなかったといっている。

いますけれども武田氏には鈴木氏が持っている二・五石車一台じゃないですか。船形清掃社についても二・五石車一台しかも本人の武田さんは以前は奥さんかりやカーでもって引いていらつしやると聞いたが現在はやっております。こうしたことに対して去る二十日に議会事務局を通じて確認したところでは市長さんの来客がおりておる市長さん来客した覚えがあるでしょう。このようにまだまだ御質問申し上げれば幾らでもある。なおオ一点につきましては営業者を呼んで指導した。あななのおっしゃるのは営業者とミミミスがある、実際にやるのは従業員がやっております。営業者はどういふことは全部承知の上だ。ところが従業員がいち過ぎてやってしまう。それを規制する方法を考へなければ幾らあななが営業者をどうこういふところでございとも違反行為に対しては市条例に営業停止

あるいは取り消しというような強硬な処置をするだけのあ
なたに腹があるなら別ですよ、しかしそういう腹がなくてこ
れではだめだ、いけな、何とかしてくれ、という要請しても実
態はこの状況だ。それで満足にいくものならば元の重量制に
おいても十分やれたはずだ。重量制という制度は一番正しいや
り方だ。そういう観点からもうと研究する余地があるのではな
いか。先ほども事例の中で領収書はほとんど出されていたか
つた。こういう点も考える余地がある。現金で出先従業員
に支払うということは何とかゴミ手数料の如く市において
徴収する、というような方法におきかえるとか、そういうた
法が取れるはずだ。もっとこの点について十分研究してい
てきたい。先だつても私がある市民の苦情をになつてそ
れを確認すべく入員の確認にきた。不欠解なのは以前
出した申請書の控えもない。入員がわからない、それでど

うして月の一日の人員を基礎としてやれますか。そのことかできますか。あなたは六日の定例市会において質問に対して算定基礎となるとこの確認をどうするのだ。という質問にしましては住民登録表とそれから町内会長とか区長とかそういう人たちを通じて需用者の数を把握してやるのだとおっしゃった。それが控えがなくて今後の人員の把握がなされていくか。その後相当需用者もふえてくることだと思ふが、この点も不思議に思いませんか。確かめなければいけません。一日の排せつ量は一人リットル、この前申請書によるところの需用者の数というものは二万四千九百五十一人だとすると二万四千九百五十一リットルこれが一日の排せつ量だ。これを人数になおすと八十三百とところが今月の一日から二十七日までの平均人数は百四十九、八五、百五十五人処理されておる。投入されておる。この点についても不思議に思いませんか。

なおもの上に日曜は投入させません。佐野の投棄所に投棄して
ある。これが現実です。その後の激増ということですか。そ
れだとするとあなたのお申請書に大きな変動がきておると
いうところにしようというものがなければならぬはずだ。また御
質問申し上げたい点は非常にありますけれども私はもう少し
良心的な行政をお願いしまして質問を打ちまじりたい。

城山の観光施設につきましてはいずれまた市長さんの御努力
によってわれわれが願望されるような施設計画が立ててい
ただけなものだと期待いたしました。また先ほど申しましたよう
に地元観光協会が主体になりました。二百万円という寄付を
集めておりまして大体それも完了したようでございます。
のでこの際もういったものを含めまして立派なものを願
いたい。青写真裏に向う進めていっていただきたい。よろしく
お願い申し上げて私の質問を打ち切ります。

議長(田中祿郎君)

午前の会議はこれにて休憩といたします

午前十時三十分

休憩

午後一時十九分

再開

議長(田中祿郎君) 午後の出席議員数三十名

休憩前に引き続き会議を開きます。

一〇番議員辻田実君

(一〇番議員登壇)

(拍手)

一〇番(辻田実君)

農協の合併の現況について御質問申し上げます。
市長は三月の定例議会におきまして農協の合併につま

して鋭意推進をはかっている市内七農協の合併を昭和四十二年一月一日までに発足させたい旨述べております。本年も残り少くなりましたがその合併の見通しがどのようなようになっておるのか、まずお伺いしたいと思つたのでございます。續いて私は七つの点について御質問申し上げたいと存じます。

まず第一は現在館山市で推進しているところの農協合併はどのような方針のもとに実施されているのかお伺いしたいのでございます。それは昭和三十七年二月五日に制定されたところの千葉県農協組合合併促進要綱に基いて県の指導のもとに実施されているものか、どうなのか、ということかまず一つは館山市農協合併促進委員会を中心として館山市独自の立場から館山市の農業の現況の中で行なわれているかどうか、という点についてお伺いしたいのでございます。そして今日まで合併促進の経過がどの

ような経路をたどつて参つてきておるものかよくお伺いしたいと思つたのでございます。

オニ番目といひまして農協の合併は近代的農業経営の確立にあるといわれております。国におきましては農業基本法に基く農業の生産力を高め農民の経済的社会的地位の向上をはかるために農協を合併し、農業構造の改善を促進することに耐え得る強力な経済主体を確立するたぐひに合併を促進しております。しかし果におきましては、もっと消極的でございまして、農村を離れていくところの青少年の増加が農業の貧困に基き因するものであつて従つて農協の合併は農協の経済力を高めようとしてこれらの離村をしていく青少年を何とか農村にとどめるといふ立場から農協を強化していかねければならぬのだという観点に立て、県は農協合併に対して、

取り組んでおります。そこで館山市におけるところの
合併の目標がどのような形の中でそうして市長が常
に申しておりますところの観光の農業ということが主
体になっておりますけれども、観光の農業というものは
具体的にどのような内容を持ていろうか、私はお伺いし
たいのでございます。そうしてこのことがどのようにして農
協の合併と結びついているかということ、私は二番目に
お伺いしたいのでございます。

次に農協合併の具体的内容に立ち至ってお伺いしたい。
これが才三さんの私は二番目にお伺いしたいのでござい
ます。質問でございします。農協合併の目標も大切なこと
でございますが、目標だけ立派なものでございまして、具
体的に合併となると目標だけでは合併はできません。
何といっても農協の財務の状況が重要な点になるからで

ございます。このことは申し上げるまでもなく、合併に絶対に必要なことは組合員の権利義務の平等性ということであらうと思います。もう一つは組合員の利益において平等性が確立されなければならないということであらうかと思ひます。この二つの事項が一つでも欠けることになれば合併の条件は根底より壊滅してしまふものだと思ふのでございます。そこで現在七農協の財務の状況に大きな欠損金やさらには負債があるのか、どういふ点について私はお伺いしたいのでございます。このことは今後において欠損金のある農協、莫大な事業負債のある農協があるために農協の合併ができなくなつてしまふというやうな事態が起こりかねないということを感じてゐるからでございます。

十四に七つの農協の合併に対する残務処理すなわち

欠損金さらには事業負債の処理は合併前に農協独自の
力で処理でき得る状態に現在なっておりますかという点に
ついて特に明確にしていた方がいいと思つてございます。一
部の農協の負債なり欠損金が合併後の農協運営に
大きな支障をきたすことがあり得るかも知れないからで
ございます。私が今述べた点については釧山市の補助金を
全くもらわないという農協側の意向ならよろしいのでござ
います。が全国の例をみても県内の例をみても大半のものが
合併に伴う補助金を受けているからでございます。中には
補助金をもらわないで合併している農協もたくさんござ
います。しかし現実には佐倉市において欠損金の補充
合併経費に一千万円・耳近かなところで江見町におい
ても補助金が五百万円・年次的に分割して支出していると
いうことも伺っております。この程度の規模の補助金は

当然であるとか吹聴しているのはどうの数字でございます。このことを市長並びに市当局が存じ上げているのかどうかという点について私はお伺いしたいのでございます。オ五に財務の確認の問題でございます。すなわちこれは今年の六月三十日づけをもつて済んでおるということとを聞いております。これに間違いないでございせんか。この財務の確認をどの機関がどのような形で行ったのか、私はお伺いしたいのでございます。それは確認の中に今後もし見出し余剰金が発見されたらよいのでございます。か欠損金等が発見されたときにはこの充当をめぐって政治的責任がとくにまた起ってくるからでございます。市長は農協合併推進委員会の委員長であるというふうにお伺っております。この点については推進委員会がどのような形をもってタッチしておるのか、どうして市長は推

進捗実長としてこのような確認の過程において起きる
るところの事故というものに対してはどのような対処してい
るのかその責任の所在を明らかにしていただきたいと思っ
てございます。さらに財務の確認後においてある農協で
は莫大な規模で農協の新築を始めております。また改
築をしている農協もございます。さらには土地を購入したり、
不動産相当な額に上るものを取得しておるというようにな
どが伺がれております。それらについては農協独自の問
題ですからここで特に申し上げることはございませんけれども
しかしながらこのことにより、合併時点において人
損金が生じた場合にはどうふうに対処されるのか、どうい
う意味から現在新築をなされているところの農協の事
務所やさらには改築しようとしている農協さらには土地だ
とか不動産というものを取得しようとしている農協に

果して事業の欠損金や買債が増大している傾向はないかどうかという点についてどの程度の範囲において認識しておるのか、この点について私はお伺いしたいのでございます。合併に際し火事場どろぼう的になされることはつしまなければならぬと思います。このようなことが非常に少いとしても現在の農協合併をめぐって巷間流れておるということを聞いておるのでございましてこの点について明解なる御回答をいただきたいと思います。

六番目に農協の合併に対して次官通達をもちまして都道府県に対して農協の諸団体は市町村と協力して農協の合併を促進し必要な援助をしてもらいたい旨の指示を以てしております。それにより県から一農協あたり十万円、一合併ケースに対して二十万の補助金が出されるようになっております。そこで熊山市では合併促進委員会が事務終

費としての十五万円さらに今回追加として組まれておるところの十万円の促進費は別にいたしましたとしても合併そのものに對して現在の段階でもって援助しなければならぬと目される。ところの金はどのような性格のものでどの程度の規模と上るかお伺いしたいのでございます。そして合併して今後こうした欠損金あるいは合併に伴って市が出さなければならぬと思われろような支出についての基準と申しますか。どういふようなものを持っておろすか、その点についてお伺いしたいと思つてございます。

最後に今回の農協の合併については、どう趣旨と内容におう地域的な話し合いが持たれたように伺っております。しかしその話し合いが十令であったかという点については非常に疑問を持たれるのでございます。それは合併すれば市町村至県から補助金もろえるので組合員が

損をすることはあまり得ないわけだから合併をした方が
 いいのではないかと、いやでもって農民の人たちは受け止めて
 おるということも私は伺っておるわけがあります。こうなる
 と合併に伴うところの莫大な費用がかかる。どうして
 欠損金も非常にかかっているということになつた場合に
 その処置について農協の合併推進委員長に市長がなつ
 ておるのだから市が当然ほかの市町村並みに二千万なり
 五千万なりの金を出すのが当然、ということでありまいの
 中に補助義務というものが発生し得かねないわけであらう
 いまして、こうした点について私は現時点において明確
 にしておかなければならぬのではないかと、いふふうに考
 えたわけでございます。従いまして私は結論的に申しま
 すれば合併にどうしても必要な経費は出さなければなら
 ないといふふうに考へております。するけれども、しかしながら

先日も申し上げましたように合併することによって一部の
人たちが特に利益を受ける火事場とらばう的なきことが起き
るというふうなことがあると非常に不明朗でありますし、
さらに補助するなり、これから農業の振興をはかつていく上に
おいて当然必要なものは農協の合併というものは切り離して
市としてできるだけの援助していけばいいのでありまして、こ
ういふ点について全国的に農協の合併をめぐって不祥事も起
きていろうやうでございしますのでこれらの点について明解なる
御答弁をいただきますのであります。

(拍手)

(市長登壇)

市長(本間謙君)

ただいま辻田議員さんの御質問に対して答弁申し上げ
ます。

一番最初の農協合併の見通しについてということでは、い

まずこれは昭和三十七年二月五日作られました千葉県農業協同組合会併促進要綱才二条才三項才十号により昭和三十七年九月十一日館山市農協合併推進委員会を設立以後本委員会が中心となりました組合長会議ありは参事会議を初めとしていろいろ説明会、部会、会を開催して啓蒙宣伝を行なって参ったのであります。昭和四十年七月十一日より三日間にわたりました七農協の県の財務確認調査があらのであります。これによりまして一応の準備が終りましたので合併の仮調印をすることになり相なったわけでございますが先般二十四日です。調印をすることになり参ったのでございます。これに一部意思の疎通を欠いた点すなわち建物や何かの関係で合意点に達しませんでした。これをも了解ができるものと私は考えております。それから才二点でございますが、

才二点につきましては農家の経済あるいは向上を目ざして農業改善事業は御承知のように着々成果を上げてゐるわけでございますがしかしながらこれは一地区に過ぎないために将来の逐次この事業を拡大していかねければならぬと考えておりますが、これにいろいろな困難性があるわけでございますがしかしながらこれはやはり農家の経済の向上を目ざして農家の方々の意見に基きましてやつていくことが必要ではないかと思ひます。

これにつきましてには農家の方々の努力はもちろんのことと同時に農家の方々の経済が弱体の面もございますが、うとういつ面を救済するにために農協に課せられ、責任は非常に大きいのではないかと思ひます。農家の方々の等しく要望してゐる近代的な農業を確立するにめには、常農の指導、価格の安定、共同販売、生産資

輕裁のための共同購買あるいは長期低利資金の融資と
 ということが考えられるわけですが、これらについては
 とはすべて農協を軸といたしまして展開しなければ
 ならないと思つておりますが、これらの要望にこたえ
 るために農協を合併しまして規模・組織・事業を通じ
 て強大な農協を設立しなければならぬと考える次第
 であります。

それからオミツの財務の不均衡ということですが、
 これは財務の不均衡の点も確かにあると思つていますが、これ
 は増資五カ年計画によりまして合併後に統一されていく
 ということになつておるわけですが、配分を考えると考
 へております。

オミツですが合併しようとする七農協の欠損金はどう処
 理するかということですが、財務確認のとぎから

みましても別に七農協としましては欠損金というものはなくて結局解散しますときの退職給与ひき当て金という特別なものも一時出すためにそれらのために欠損金となると思われぬわけでございます。これはそのままの形において、すれの農協も合併することになると思っています。才五点の財務内容の確認のことがどうなっているかということでございますが、去る六月三十日現在をもって県及び中央会の方々によう検査されたわけでございますけれども、全般にみまして特に不振農協というものはなかったわけでございます。農協の新築、改築並びに土地の購入等についてはお互いに相談してこれをかたづけしていく。こういう方向に現在進んでいっております。才六番目の促進のための補助金でございますが、これは県からも市からも推進委員会に対してやっております。

でございますが合併後の事業計画が約七千万円というこ
とになっておるわけでございましてこれに対しまして
一割程度のものは年次計画によつて市で助成していかな
ければならぬんではないかと考えらるるわけでございま
す。

オ七番目の農協合併後の農政指導等の抱負はどのよう
なものがあるかということでございますが、まず農業構造
改善事業実施地区においてはその早期完成をはかり、
並に経営の改善、合理代を積極的に推進して農業
機械の共同化及び共同作業の指導に当たり、さらに
部門別に併任の営農改善指導員を設置し指導
体制を強化するとともに各種農業団体の統合をはか
つてこれをなるべく一本化して育成していきたい、という
ことでございます。

最後の十八番目でございますが農協の合併を十分理解させたかどうか、こういうことでございますがこれにつきましてはこれまで単位組合ごとに数回にわたりまして役員会、部落会、部落座談会等を開きまして、一般に周知徹底させました後に合併に踏み切るといふふうに理解されたことと思います。以上でございます。

二〇番（辻田実君）

ただいま答弁の中で財務上の問題については特に問題かなさそうだという答弁であつたわけでございます。その点について私は確認をいたしてその点についてはやめたいと思つたわけでございます。というのはその点につきましては幾つかの農協の合併のケースをみておりますが健全なといわれておつたところでも農協合併に伴う合併そのものに対する補助援助という形の中で相当の町村の支

出さういうものが義務的に考えなければならぬという立場に迫込まれて常に議会なりでもあてているということも聞いておるわけでございますが今の御答弁でございますと非常に健全で農協独自のなかでなされる。こういうことでございますのでその点につきまして再度、市長さんも平貴長さん並として当たっておるわけでございますしてその点はそのように把握してよろしいのかどうか。

市長（本間譲君）

関係課長から申し上げますから。

農林水産課長（伊藤幸太郎君）

私の方から申し上げたいと思っております。いろいろ市長の方から述べました通り財務確認等の状況をみますると幸いいたしまして又農協とも大きな欠損というふうなことがございませんで経営上は非常な不振の点もない

ようでございます。でございますので、たゞいまの御質問に
ありました合併そのものに対する補助金ということについ
ては市としては現在のところ考えておりません。ただ今申
し上げました通り新しい農協が発足後におきまして
五カ年計画というものが打ち出されるわけでございますが
その中におきまして、真に投資事業といひまして
倉庫の建設とかあるいは農機具セクターとかあるいはどう
いったいろいろな投資設備が一応予定されてゐるわけで
ございます。それに対して今七千万円予定されてゐるわけ
でございます。でございますので、市はやはり農協の運営上
どのような設備に対しまする補助といたしまして、今申し
上げました通りの範囲で状況に応じて考えていきな
いというふうに考えてゐるわけでございます。

二〇番(辻田実君)

もう少し表面的にはどういふものはないということもいつて
 ありますけれども確かに合併の経過というものを
 みまして、その中に特にひどい人損金というものはな
 さうでございますけれども五カ年計画の増資計画
 ああいうものをみますとかかなり無理があるのではないか
 五カ年計画なりというものが達せられない面が出てきます
 と大きな負債、欠損金という形が出てくる場合もあるの
 ではないかということが想定されることと、さうには市
 長の答弁にもございましたが現在退職ひき当て金という
 ものを全部ひくゐて合併するということになります
 と事業負債という形で実際には資産があるわけで
 帳簿上は赤字ではないのだというけれども処理されると思
 うけれどももしかしたらそれが逆の見積りの甘ささうに
 事業負債が全く赤字になってしまう、こういう場合に

はかなりとれによつて大きな問題も起ころと思ふけれども
そういうような点については見通しは今市長が答弁されたよう
に非常に樂觀的に受け取つておいていいものか。私は合併後
の新規事業に対する補助金援助は無限大、必要に応じて
幾らでもいいと思ひますが、新規事業ではなくて旧事業に
対する補てん金という形のもものはあり得ないというような
御答弁の趣旨から伺はれるけれどもその点によつて再度
御答弁願ひたいと思ひます。

・農林水産課長(伊藤幸太郎君)

ただいま申し上げました通り七つの農協の運営状況
は幸いにいたしました。そういう極端な大きな支障のない運
営がなされているというところは事実でございます。ただ一部
におきまして財務の不均衡ということが当然考えられま
すが、かような意味合いにおきまして合併に当りまし

その平均値は正のため補助というふうな意味の金とい
うものについては市としては一応考えなくてもいいままの
次で合併するということが原則でございますのでよろ
しうんではないかということを考えております。

議長(田中祿郎君)

暫時休憩いたします。

午後一時	五十三分	休憩
午後二時	二十五分	再開

議長(田中祿郎君)

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程才二、議案才五十七号を上程いたします。

この際申し上げます。議案才五十七号以下才六十九号

の内容説明は先日のお会議で終っておりまうので本日はにだちに質疑に入りたと思ひます。

本案に対する質疑を願ひます。

・三四番（山本昇君）

議案オ五十七号について、二三、お尋ねしたいと思ひます。
~~す。~~

まず基本的な考え方についてはお伺いしたいと思ひます。それは先般の御説明によりますると、今までこうした表彰条例が熊山市にはなかった。そこで今回条例としてしかもこれを毎年十月三日の文化の日にてこれを行ないたい。このような御説明を伺ったんでございますが、それに関連いたしましてお伺いしたいのはこの表彰条例が今まで毎年行なっておりましたところの文化祭におきまして文化功労者というふうな意味におきまして、

市長の名において表彰されておたのでございますがこれとの関連性すなわちそれは今まで通りやられるのかあるいはこれに包含されて今後どうしたことがやられるのかとうかということが一つさらにそれに関連いたしましたとして今まで文化功労者として表彰されておりました選挙人は社会教育委員会ですか。こうしたところで一応の基準線が出されてそれに基づいてやったように私記憶しておりますがどうした今回市条例に基きます。本条例に基きます表彰はどこにおいてどのような形において選挙され決定されるお考えであるのかこれを基本的によります。オ一点にお尋ねしたいのでございます。次に各条項にわたりますして二三尋ねいたします。

オ三条でございますが「次の各号の」に該当するものについて市長が行う」という中に「オ」といたしまして「市の

公益のために三十万以上の金品を寄付したものを」というふうに明
記しております。これについてお尋ねしたい。これはどうも
国におきますところの表彰条例等においてもはつき
り額が示されておるといふふうに聞いております。ニハ
もはつきりと三十万という限度、こういうことをあすことが
どうかということになります。いろいろありましようが
経済事情の変更に伴ひまして貨幣価値の変動と
いう観点からはつきり条例にうたうということはどう
か。また別な方法で規則の上において一つの基準を
きめてニハは一定額というふうにでもしたらどうかろ
うではないかというふうに考えますが、この点について、当
局で考え方を聞きたい。さらにまた三十万という一つの
基本線をおししますると三十万以下は表彰しないとい
うふうに解釈されると思います。

そこでその気持を持っておる方が三十万程度、寄付
をされることはこれは大いに結構なことでございまして
やつていただきたいと思います。その反面におきまして
それほど裕福でない方が社会福祉その他について心
から協働して言葉が過ぎるかもしれません。貧乏者
の一点という面でもないではない。こういうことに対してどう
いうふうに考えるか、三十万という一つの限度でやるという
ことはどうかと思ひます。

第二号に「市民の模範となるような」ということに含んで
いただけるなら別問題といひまして、そういうたことに
関連してこの条文に対する市当局の考え方を聞
きたいでございます。

それから第四条の功勞表彰でございしますが、各号
一に該当するもの功績顕著なものについて市長が

行なう。」というふうになつております。

「市長の取に八年あるもの」「市議会議員になつて十年以上」というふうになつております。これについてお尋ねしたいのですが、市長の取にあつて功績多大ということばかりですが、原則として市長の場合に八年以上在取した場合表彰する。議会議員として十年以上あるものは原則として表彰するものか、十年以上議員に在取していても功勞顯著ということがこれによつて査定されるものか、こういう点につきまゝしてどのようにお考えになつておるものか、この点をお伺いしたいのでございます。

次に第四條第四号「前号にかかげるもののほか」ということでござりますが、こういうものを作るときには、原則としてはそのとき事情によつてかわるから、広義に解釈する意味におきまゝして、こういう号がかかげられて「前号

のほかにという言葉を使つたと思いますが、何か現時点におきましてこういうものも考えなくてはいけないのではないかと、というお考えがあるかどうか。以上の点につきまして、当局、考えをお示し願えれば結構だと思ひます。

秘書課長（小倉登男君）（山本議員さんの御質問に対して）お答えいたします。

第一点の基本的な考え方でございますが、これは表彰条例、表彰規則におきまして、現在立案してある中でございしますが、文化の日を定期的な表彰日といひまして、なおもう一つ申し上げますと、表彰、特別に必要な時点があつたときには、そうときもやるという考えであります。それが、それと、関連いたしまして、ただ今まで、毎年文化の日、教育委員会、社会教育課が主催いたしてあります文化祭行事、一環といひまして

文化祭会長である館山市長が表彰してあります文化功
労表彰というものがございしますが、これはあくまでも、こゝたび
う市が表彰条例とは別個うものと解釈しておりますが、一か
一ながら三いうような市として、総対的な表彰条例を
制定いたしまして、あかつきには、教育委員会、文化祭の当局
とも、より話し合いをいたしまして、何とか私の方をいたし
ましては、統一して参りたいという考えでございます。一か
一ながら文化祭という行事でございしますので、現在としては、
やはり文化祭をやめるとか、そういうものは考えておりません。
なお、選考の方法でございしますが、これはいろいろな公益のた
めとか、市長の恥にあつたものとか、表彰の該当になる部門
を直接担当しております担当課と申しますか、担当課
が表彰の内申を市長に提出いたしまして、市長がそれ
によりまして規則によってその内容を十分検討いたしま

して功績顕著のもうであるということが認定さされた
ときに表彰していく。そういう考えでございます。

次の問題でございますが、三十万という金額となぜうな
つたかということと、貧者の一灯ということを考えたいでござ
います。これはまことにそういう御意見もいうことがで
きるのでございますが、自治省等から表彰条例準
則等もいろいろ検討いたしまして結果、金額が掲載
されておりますので、ここに三十万円という限度を決定した
次第でございます。

なお、例えば、三十万以下のもは、表彰しないのかというこ
う点でございますが、あくまでもそういう方はやはり貧
しい中から、定期的に毎月毎月きまつて、市の社会福祉事
業、そういうものに寄付をさして、誠意を示していただいた
方はやはり、市民の模範となるような善行をなさいた方

というような解釈をいたすとかいたさないということとは断言
できませんが、そういう解釈の方法によりまゝで、その美徳
に對してはたえていきたいという考えを持つてゐる次第で
ございます。

次、第四條に關する功績顯著なものと云ふのは必ずず
例えば市長、取に於て八年在取、なというものは必ずず
ということではございせんであくまでも功績顯著な
ものでなければならぬということではございせん。

これはやはり先ほど申しましたように、その内申によりまゝで、
種々検討いたしまして結果、功績顯著であると認めら
れた場合にのみまゝで、これが表彰なされるということでは
承いたしたいと思います。

なお、それから第四号、前号にかかげるもののほか、という
ことでございしますが、これはただ今、山本議員さんが申さるま

したとおり、市に関連いたしまするあらゆる役取がある
 りでございますが、それを一・二・三と分けまして、そのほか
 まだまだ市の特別取といひまゝして、例えて申し上げます
 ならば、消防団員とか区長さんとか、連絡委員、そういうよう
 な広範囲のもうでございますが、そういう方たちがやはり
 永年、間に、市勢振興のために協力していただいたという
 ことに對して、労を報いたいということ、四号として、わか
 げに次であります。

以上、簡単でございますがお答え申し上げます。

三四番（山本 昇君）課長さん、御説明で、一応わかりま
 すが、私は、こういう表彰条例ができた以上、従来、行な
 われておりますところ、文化祭の文化功勞者というもの
 も、第一条に、市の政治、経済、文化、社会とはつきり、うな
 っておる關係上、やはり統一して、また方が賢命では

なからうか。行事は別だからという考えでは私も理解に
苦むんですが。こういった方向にやっていた方がいい。
二う考えますので。二う点は将来検討していただきたい。
そういうふうにお願いでよければ幸いです。今後
十分御検討いただきたいとお願ひ申し上げる次第であり
ます。

次に第三条の三十万云々の問題でございますが、国における
表彰条例もはつきり金額が示されておるということであり
ますので、一応基準はとむを得ないという気もするんです
が、二についてもう少し御検討願えないか。さらにもう一つ
三十万ということも聞きますと、今年三十万やった。来年三十
万やったということになると毎年毎年そういうことはあるか。
ないかは別問題といえまして、毎年毎年対象になる
ということではない。二う点も一応考え方を聞きたいと

思ひます。

四、条件問題につきまゝでは何年以上勤務したものであるということに
 するとそれだけならば、表彰の対象になるのだということにな
 くて、市議會議長会の表彰の問題につきまゝとかくの
 ことがあることも自分たちのことであるけれども聞いてお
 ますので、この点は年限を過ぎたから表彰の対象になる
 のだということではなく、厳格の意味でも考え願うということ
 で、この点は了解いたしました。三十万の問題はほかに
 考えようがないか。この二点だけ伺いいたします。

秘書課長（小倉登男君）お答えいたします。ただ今、一点の基
 本的な考え方でございますが、私先ほど言及するまでもござ
 います。現在ある中で、そのままということをお願いしてまい
 まいながら、基本的な考えといたしましては、今申さるまいと
 ございり、市の文化功勞という中に含めていきたいというこ

とでございます。

現在、文化祭という一ツの行事も持った別々の団体でござい
ます。その団体とよく協議いたしまして、そのようにいたして参
りたいと考えております。

なお、第三条でございますが、御意見見まことにござつてもで
ございますが、ただ今ところ、準則等にも明記してありま
うでございますので、そのようにやりまいたが、今後はこれに
対して検討して参りたいと思ひますが、この際、このままやら
していただきたいというふうに考えます。

一八番（西村真次君）ニ三お伺ひたいと思ひます。

第四条に含まゆる問題であります。又号あだりに産
業、教育、土木、衛生、その他という字句が使つてあります
が、体育関係の功勞というものはお考えになつて
おられないかどうか。それともう一つ、消防団員、三つう

方々の場合にどんなお考えをなさっておられるか、二はが
 一点、それから二は細かいことのように感じますが、第三条
 で一と二に分かれておりまして、二号と一号を逆に置くべ
 きではないかという気がいたしますが、あくまでも善行表
 彰であつて善行を主とすべきであつて金ということとを第
 一に打ち出しますと、金品が優先するようになる気がしない
 もので、この点御参考までに申し上げたいと思ひます。
 それともう一つ、原則的な面ではありますが、効力発生々時
 期といひますか、適用の範囲といひますか、そういうものにつ
 いてはつきりしてないように思ひます。

といひますのは、この効果は公布の日から大体発効さへる
 わけでしょうが、第四条に明記されております八年とか
 十年とか、十五年といふのは、公布の日から起算さへるべき
 ものであるか、そういうことで現に在取しておつて、公布の日

以後において指定する年限に達したものは有効であるといふか。もう一つ、公布の日以前において規定する年限に達してゐるけれども、在取していないものはどうする。か。こゝういふ点にまことに明確でないような気がするわけですが、この点につきまゝて御意見をお伺ひしたいと思います。秘書課長（小倉澄男君）お答えいたします。最初に二条の二の順序の關係でござりますが、こゝも、市が公益のためにといふことを我々、こゝを作らなうときに考えまゝであつても、やはり、市が表彰条例という中、性格といふもので、市が公益のために尽くすものというものを先にすべきではないかといふことと、また、各市が条例等も検討いたしまして、調べてみましたところ、全部、公益のためにといふことが、優考いたしております。それによりまして、公益のためにといふことを置いた次でござります。

第三点。消防団ですが、これは先ほど申し上げました通り、第四号に該当いたしますところ、「前号にかかざるもの」ほか、市の特別取組職員という方に消防団の団員は該当します。なお、体育という面でございますが、体育という言葉が落ちてしまっておりませんが、それも一応、市の公益及び振興に尽きるものというふうに解釈していただきます。

それから、最後の毎年十一月三日を定期的な表彰日というところを規則にうたっておりますが、やはり起算時点を十一月三日を中心にして、起算をする。一かき表彰条例が発行いたしますと、ただ今までにすでに年限的に申しまして八年、十年、十二年、そういうようなものに該当する方が当然出てくるわけでございます。なお、施行規則、方におきましては、あくまでも、第

四条に在取期間を別に規定いたしてございすが、創えて申しますならば、市会議員を一期おやりになりまして、その後連絡委員を何年かお続けになっておるといふのは、それぞれ一つ一つ表彰に該当する期間を換算いたしまして、通算いたすという規定がございしますで、いろいろケースにおきまして、そういう規定によつてあくまでも十一月三日^{まで}現在にいたしまして、計算いたしまして、それで八年から八年という市長も四年やつて市会議員を六年やつた、その六年を換算いたしまして、市長と合わせまして市会議員にたおした場合に、市会議員十年以上になつた場合には、それが表彰の該当になる。

あくまでも、通算規定でございす。現取でなければならぬということではございせん。

一八番(西村真次君) 第三條、第四條の点につきましては、了

解いたまいた。

ただ今、期間ですが、私がお尋ねしているのは、その期間の一番最初の時期、どこから起算するかということであつて、具体的に申し上げますと、この条例は、この十一月三日から発令する。こういうことですね。

すでに、前期議員をおやりになつたような方でも、すでに前期までに八年議員なら、十年在取っている方があるかもしれない。ところが、現在は議員ではない。そういう人たちまで表彰が及ぶのか。そういうことをお尋ねしているわけです。

秘書課長（小倉登男君）　そういう方たちにも及ぼさうしていただきたいと思ひます。

三五番（松本藤太郎君）　大体わかりました。第四條の四項、市、特別区、職員という解釈ですが、今御説明聞

きますと、部落会長さんとか、消防団員とかいうことをおっしゃる。市、特別取、取員というものははっきりと条例であるのではないかと思うんですが、その点を教えていただきたい。

・秘書課長（小倉登男君）お答えいたします。これは地方自治法に規定されております。特別取、取員、範囲と考えております。

・三五番（松本藤太郎君）地方公務員法による市、特別取、取員という中に部落会長とか、消防団員とかいうものも含めておる。こういうことでございますか。

・秘書課長（小倉登男君）部落会長というものは含まれておりません。失礼いたしました。連絡員だと思います。

消防団員は含まれております。

・三五番（松本藤太郎君）部落会長でかくて、市、連絡員と、いうことに解釈してよろしいわけですね。

消防団員といひますけれども、団の役員をやておらゆる方もあるだろうし、普通で団員の方もあるだろうし、そういう方にも一律に期間というものは十五年やれば功勞者ゝ対象になる。寧ろいうふうに解釈してよろしいんですか。

・秘書課長（小倉登男君）　そういうふうに解釈いたらないと思ひます。

・三五番（松本藤太郎君）　最後にこの条例ですが、第一条に政治、経済、文化、社会、その他各般とありますからよろしいんですが、先ほど三四番議員も質問されておたうです。文化功勞といひますか。或いは体育の振興に功勞があつたもの。寧ろつたものが市長さんから今まで文化祭のときに表彰を受けておた。寧ろいうものは字句として入つていない。善行者の方は一般市民を対象として

ある。功勞者の方は市關係のものを対象にしてゐる。

二ういうふうに大別して私感なんです。文化体育という
ものに対する功績・功勞というものがうたい文句がない。
先ほども同僚議員の質問では、市公益、並びに振興
発展に尽力したものであるという中に入れてしまおうということ
らしいので結構ですが、将来ないものが表彰に出てくると
いうことでは、現実に合わない気がします。今後商
會の字句に今後当局で改正されるなり、そういう機会が
あつたら、はつきりすることを希望いたします。けれども、
これは要望として、そういうふうをお願いしたいと思います。
さらに特別取組取員の消防団、団員關係ですが、同じ
ように取られるということは、市条例による表彰ですから
公平になった方がいではないかということも感じますので、
付け加えます。

一番(辻田実君) 関連して二点ほどお伺いしたいのでござい
ますが、今まで、市の表彰というものは表彰条例がなか
つたわけでございますけれども何か規則的なものがある
かどうかという点について参考までにお伺いしたい。

二番目にここに表彰条例というものができるわけでござい
ますけれどもこの点については私、不勉強で申し分け
ないんですがいろいろな面において市長ということでもって
表彰しているものは数多くある。

例えば、学校の展覧会におけるところの特賞という形
のものもあるでしょうし、体育の場合に市長賞というこ
とで優勝チームに対して、館山市長という形のものも出て
いる。そういうものもあるときりがない。

しかし、各般にわたって行なわれておるわけでござい
ますけれども、そういう関連というんですかどうなのか。

今後表彰という名がつくものについては、正式のものについては、全部をそいかわいのが、二点について御質問申し上げたい。
秘書課長（小倉澄男君）お答えいたします。ただ今まで、表彰に関する規則というものがあつたかということでございますが、これは全然ございません。

それからただ今、辻田議員さんがおっしゃいますように感謝状とかいうふうなものはその都度、都度、場合によりましてさああげておりますが、表彰というものは今までは市政施行五十周年記念でございますが、それ以外にはない。館山市長として、表彰はない。なおまた何々市長賞というものと、こゝ表彰というものは、全然性格的に違ふのだというふうに解釈していただきたいと思ひます。

一番（辻田実君）性格的に違ふものだろうということは了解いたしますが、最近、市長の方から体育文化芸能、いろ

いろな面にわたって優勝状とか表彰状、感謝状、そういうものが盛んに出てゐるわけですから、そういうものについては、乱発的な傾向があるという批判をあげておつて、そういうものに対する規則、千葉県には、県知事の表彰については、二町村以上、また、行、事、功、績、そういうものでなければならぬ。一町村単位のものには、やらない。こういうような感謝状にしてもあるということと同つてありますが、そういうものがあるのかどうか、よくないと、表彰条例だけできつくりはつて、その他、面で乱発されてゐると、あるいは、やうな気がする。

その点については、市の表彰規則、感謝状規則、そういうものも、この関係、して作る予定があるのか、お伺ひたいと思ひます。

秘書課長（小倉澄男君）市、市、表彰条例によります、表彰と

いたしましては一般の表彰とは性格が別であるということと
明記いたしますので、そういうふうに解釈いたしたいと思ひます。
なお感謝状その他関係でございしますが、これは当然に
こういう表彰条例ができてきまして表彰施行規則というも
のを制定いたしますと同時にそれに関連いたしまして、
いろいろケースで感謝状等を出してありますが、そういう
面についても規則を作つて統一を取つていきたい。今まで
そういうものがございまして、そういう場合、その場
によりまして感謝状を出してある。なお表彰状というも
うは簡単に出来るものではないということであり、いろいろおことわり
申し上げてきたこともございますが、感謝状まではおことわ
りできないということと都合によりましてできておりま
うた。これを機会にそういう方面の方法等を十分検討いた
してやつて参りたい。そういう考えでございます。

二三番(中村省吾君) 一点だけお尋ねいたします。

先ほどから質問の中で答弁を得ているようでございますが、なおお聞きしたいと思いますが、第三条の問題でございますが、第三条の一二項はすでに市長が行なうというところで、当然表彰するのだというところになってまいって第四条は「功績顕著」ということで必ずしもそうではない。こういう含みがある。第三条においては必ずず一二項で表彰するのだということになる。そこで山本議員からも質問がありまして、第一、三十万という金額を切ったということですが、答弁もいただいております。秘書課長の答弁で深い意味がないということとを答弁されておる。このことを考えまして先ほどから三十万と貧者、一灯という表現が使われておる。これは非常に深い意味があると思います。

私も適当な言葉がないんですが、ニローな表彰ということ
を考えた場合に地方自治がいろいろな目標にも書いてある
とあり、こと、そういうことが、地方自治の目的の一つではござい
中でそういうおりおり行政を、そのことが住民の秩序を
維持するということも地方自治の一つの任務でござい
最近の例で申し上げます。今運動会でもものを賞
に出すということはおまなくなってきた。ただ壇上によつて功績
をいただけるというふうにかわりつつある。帳面とかそういうも
うさくやるということはどうかと思つた。というふうになつてきて
現在そういう一つを考えた方も金額をきめるということには考
えなければならぬではないか。三十万ときめたそのことによつて三十
万出すこと、自体を考えた場合、確かに市の公益のためにな
つたということが言えると思つた。一カー、それが六万市民
を対象としてあらゆる階層のあらゆる考え方を持った人

たちがおる。そうしますと、そう三十万というものをあげたがために、本当に六万市民になるほどいいことをしたと思えることだろう。どうか、逆う場合がなきにもあらず、そういうことが仮りにあったとする。その場合に表彰した。そのことが逆効果になるのではないか。こういうことも予想されるわけです。従つて私は基本的にこういうことが貪者う一灯という表現を尊重いたいたいと思う。ただ、単に三十万という金額だけで表現したのは、そこに不明朗なものがつくのではないか。そういう懸念も持つ。その点まで御検討なさつておるはずだと思ひますから、もういつまで御答弁願ひたいと思ひます。

秘書課長(小倉登男君) お答へいたします。第三条の金額の問題でございますが、あくまでもここに金額を明記したということにつきましては、そういう考えもあろうかと

存しますが各市の例を調査いたした結果、このようなことになつたのでございますが、あくまでも三十万以上の金品を寄付したものを市長がさらに十人検討いたしまして表彰を行ないたいというところでございます。その点はあくまでも施行規則によりまして表彰の方法を決定していく。検討の結果、この方が適当ということでは表彰するのだというふうにお考えいただけます。

二三番(中村省吾君)　そういうふうにおっしゃればわかるんですが、ところがこの表現だけではそういうふうに取り合わない。はつきりいつて三十万おせば表彰の対象になるということが、明文化されておる。ところが御説明のように第四条と同じような精神だということをお答弁になつた。そうしますと、やはり第三条の表現をもう少しお考え願いたい。このような考えるわけですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君)御質疑なしと認めます。よって本案は
討論省略原案とまり可決いたします。御異議あり
ませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君)異議なしと認めます。よって本案は
原案通り可決いたします。

日程第三 議案第五十八号を上程いたします。

二三番(中村省吾君)まず第一に条件付採用取員臨時
取員でございますが、こゝ方なりをいわけゆる一口について
公務員並みに扱うのだ。こういうことになろうかと思ひます。
そういうふうに解釈してよろしいかどうかということ。それから
その際に責任分野が一般取員並みに責任度合いを
どう扱うか。そういう点も合わせて御説明願ひたい。

秘書課長(小倉澄男君)お答えいたします。第一点につ

きまゝでは条件付採用取員と臨時任用の取員の分
限の關しては一般の取員と同一の扱いをするのだといふ
ことでございます。

責任分野は一般取員とは同一ではございません。

・二三番(中村省吾君)　そうしますと分限については公務員並みだ。
責任については公務員並みで責任は持ちません。分限をオ
ニ条の条項で公務員の分限に關する条項と同一の条項
が書いてある。そこまでいりゆる一身上に關することを分限
と規定してはお四十条ですが、四十条の項を規定づけ
ないのか。その点御説明願いたい。

・秘書課長(小倉澄男君)　条件付採用取員と臨時取員といふ
ふうに明記してございますが、条件付採用取員というのは
条件採用によりまして任用さへなカ月間のものでござい
まして、こゝが経過すれば、正取員になる。正取員にならば

条件付採用取員であつた期間も正取員としての待遇を受けるのだということと同じような性格にありながら違ふのだということを申し上げて、一か一ながら地方公務員法々二十九条におきまゝていわゆる適用を除外してゐるのだ。四十九条という不利益処分関係でござい
ます。不利益処分問題に申し立てをしても申し立てることができないというふうに解釈しておりますが、こういうこととで二十九条の二項におきまゝて、前項各号にかかげる分限については、条例で必要な事項を定めることができると補足してありますので、せめて分限だけでも取り上げて、三三三という気持ちで、この際条例化に次ぎであります。

・二三番(中村省吾君) あとから言いかえらうたやうでござい
ますが、四十九条は、最初適用しないのだということをおぼし

をられた。そうではない。但し書が四十九条も含まれる。

四十九条を含まないなら二十九条も当然含まれない。三十九
うことになるでしょう。まずその点です。

議長(田中祿郎君) 暫時休憩いたします。

午後 三時 二十分 休憩

午後 三時 三十七分 再開

議長(田中祿郎君) 休憩^前に引き続き会議を開きます。

秘書課長(小倉澄男君) 中村議員、御質問に対してお答えい
たします。

ただ今調べました結果、地方公務員法の逐次解説におき
まして、第三十九条の二項の要旨を朗読いたします。

本条は条件付採用期間中の取員及び臨時的に任用され

に取費の分限について特例を定めるとともに、こゝらう取費に關しては、不利益処分に關して話し合ひ申し立てても認めらうないことが規定されておりますので、御了承いたいただきと思ひます。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）御質疑なしと認めます。よつて本案は討論省略原案通り可決いたします。ことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。よつて本案は原案通り可決いたします。

日程第四議案第五十九号を上程いたします。

三五番（松本藤太郎君）使用料の改正ですが、三十九年度の予算などを見ますと、赤字になっておるようです。

という事も今までは大体結婚式場として使ったことが非常に多いと思いますが、三、四^百円位しか使用料を取っていないということが出てゐる。

今度結婚式場として千円取るということになれば、こういうような赤字はなくなるとは思いますが、その点の見通しを教えてください。

それから監査報告をみますといふに婦人会館の新建築物ですが、これを市に寄付するか、さもなければ固定資産税を賦課する、いづれかということ、私たちは承知しておつたんですが、これをいまだに処理されてない。今回監査委員の指摘を受けておるようですが、これについて当局の御見解を聞かしていただきたいと思ひます。

社会教育課長(利田正男君) お答えいたします。三十九年度と同様な利用件数がございますときには、こゝ一年を満

いて計算をいたしますと十九万四千七百円の使用料が
 上る予定でございます。七万五千三百五十円ほどの増収を
 見込みがございすので、おおよそ本年度当初予算十五
 万円に比べますと、九千円ほど上るという見込みでございます。
 新館の問題でございますが、固定資産税の方は、社会教
 育面に役立てている機関でございますし、他々市におきまし
 ては、結婚簡素化とか、そういうものを公民館、或いは市民
 会館において一室、或いは数室を与えまして、それに結婚
 簡素化運動等に対する補助金を支給している面等も
 ございすので、館山市婦人団体連絡会におきましては、そ
 の点、私ともうかに全く手をかけずに独自に努力されてく
 っておりますので、そういう面から固定資産税は免除して
 いただけるように申し入れてございす。

三五番(松本藤太郎君) 収入のことについては、三十九年度は、

七万幾ら赤字になっておりますが、今、説明ですと、それ位の黒字になるということで了解いたします。

使用料一階・二階・和室とありますが、現在、下、階ですわ。本館ですわ。本館だけの使用料ですか。新しくできた、まだ市のものになっておらない固定資産税をまけてくれといっておる。新山ものにも適用されますか。

社会教育課長(利田正男君) これは本館だけでございます。三五番(松本藤太郎君) そういたしますと、新しくできた建物については使用料を幾ら取っておるかということについては全然わかりません。こういうふうに解釈してよろしいわけですか。

社会教育課長(利田正男君) そうとおりでございます。

三五番(松本藤太郎君) そういたしますと、あそこを使用する市民というのは、同じ館山市の婦人会館、こういう認識の

もとにあそこを使つてゐる。同じ場所に同じ婦人会館として、一かも廊下で一階にくつてゐる。一方は市の条例によつて三百円乃至五百円ということにしてゐる。一方の会館は幾ら取り立てゐるか私知りませんというのは無責任だ。そのような使用料を取つてゐるならば当然、固定資産税を賦課すべきだ。それを負けてくれというのはどういうわけだ。一かもこれは監査委員の指摘です。これは前の議会でもはつきりしてゐる。

こゝ私に申し上げれば、質問された議員さんははつきりと御記憶があると思う。議会でもそういうふうな約束してゐる。どうかいいます。市に寄付しますか。さもないと固定資産税は賦課します。こゝいつてゐる。一かも監査委員の指摘を受けてゐる。もう一月以上にもなる。なお新しい館の使用料を幾ら取つてゐるかも知れない。

固定資産税は免除していただきたい。そういうことではちやうど
通らないと思う。あんなだけや考えなうか。或いは教育
委員会としてのお考えなうか。その点をお聞かせいただきたい。
・社会教育課長(利田正男君) 先ほど申し上げましたように他の
都市におけるそういふサービスなどが、頭の中に取りまゐる
ものですから、そういふ面でも願ひして取りまゐらなければい
きません。それは私が交渉しておりまゐる程度でございます。で
委員会の決定までにはなっておりません。

・三五番(松本藤太郎君) 教育長さんに申し上げますが、少なく
とも、前日も議会でもこのことについて質問に対しては、はっ
きりとお答えになつておる。いつかになりますとなつておる。

今回このような指摘を監査委員からも受けておる。これも
一月もたつておる。本会議で答弁しているから二年位に
なるのではないですか。それでもなお、そういうふうなことで

我々としてもどうも理解できない。でありますので、このことについては、教育委員会において取り上げてはつきりしていただきたい。このことを要望いたします。

・教育長(押本禧逸君)了解いたしまして善処いたします。
 ・二五番(荻生田七郎君)関連質問ですけれども結論的に
 いて市の建物をお使いになつて努力をしておりますけれどもある程度利益を得てゐる。婦人団体が努力を
 いますよ。一しているけれども、あの立派な新館が建つて婦
 人団体の運営につきまゝでは経済内容について何ら
 市が監査委員はタッチができない。婦人団体は
 経費はもちろん明朗でありまゝ。一かしとかく
 風評もある。そこで前回、予算委員会におきまゝ
 もっと明朗化さなければならぬ。オープンにしなければ
 ならぬということも当局に強く要望した。

市長は当時そうするということをお答えになった。いまだに実現できていない。そこで聞くんですが婦人団体ですからももちろん市課長その他の方は役員に入っておりはないでしょうが少なくとも経理内容について全然無関係であるということは私はちょっと常識的に受け取りがたい。努力は努力として立派な事業ですから社会事業ですからその発展は私どもは待望する。しかし先ほど申し上げました如く市建物を借りて大部分のもうけをもっており建物を作って今松本議員から質問があった如く、それも市建物の料金アンバランスということも考えておらない。それではいささか納得いかないであります。ただ漠然と婦人団体は強い団体である。婦人の髪、毛をつなげば象もひばいる。そういう婦人団体の威圧に負けて筋を通さないということはいけない。

今回の改定によつて赤字は解消されるでしょう。——からいから運営を明朗化するためにあつた寄付してもらつて、そうして全体的な運営をやつたらば市民も助かる。婦人団体もよろしい。

そうした二者択一と申しますか、私は固定資産税を取るよりも寄付してもらつた方がいい。改正に関連してこの前の答弁の関係から市長さんの御答弁を承わりたい。
・市長(本間譲君) 婦人会館の寄付をもらいたい。

こういう話ばかり前もあつたわけですが、あつたは私も、不用意な点もございまして婦人団体の方々が金を出して寄付をもらつて市からも助成してある。それでできていると思います。あつたは市でひき受けに方がいいかどうかということは維持・管理ということも考えますときに、そこに研究の余地があるかと思っています。

また婦人会の方でああしてやらう方がある意味ではないんではないかと思う面もあるんですが……

・二五番(萩生田七郎君) 私有質問しているのは婦人会館を独自の方で建てた新館を寄付してもらって新館も一貫して婦人団体にまかして市がアドバイスをして円滑な運営をいたういではないか。二う思うんですが市長さんうち考えいかがです。

・市長(本間譲君) 新館のことですね。私は新館についても之は婦人会にまかしてもらった方がいいんじゃないかというふうに考えております。

・二五番(萩生田七郎君) あの建物を固定資産税を取るといふよりもあを寄付してもらって市有物件としてその運営を婦人団体にまかしたらいいではないか。運営の過程で市が経済的にアドバイスする位うポストを持って参る

たらいいではないか。でないと婦人団体や選挙について旧館と新館の料金もまちまちである。

経済内容については監査委員は内容を監査できない。それによって得た利益で建てておるから。そういう点を明瞭にしたらいいではないか。三というふうになっておる。それとも今までどおりでよろしいという解釈ですか、市長さんは。

市長(本間譲君) 新館の選挙につきましては、私は聞いていませんけれども、これは係の方でよく折衝して、そのようにやるように指導して参りたいと思います。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 御質疑なしと認めます。よって本案は討論省略原案とおり可決いたします。御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

。議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決されました。

日程第五 議案第六十号及び議案第六十一号を一括上程いたします。

。一〇番（辻田実君）六十号の新たに生じた土地の確認については、船形や埋め立てについては市有地になっておるんですか。国や土地ですか。果やなや。その点について。

。庶務課長（山口実君）現在うところは果で管理しております。まだ市の方に来ておりません。

。一〇番（辻田実君）果有地だそうでございますけれども、館山市でもって埋め立てや費用や負担というものがあつたそうやございしますが、こゝの計画とか、館山市に編入ということについて話ができておるや。使用についてやあは市にあるや。払い受けるという話が具体的に進んでおるか。

さもないければ、果として、こういう使用方法にするということについて明確にされておるか、そういう面について。

庶務課長（山口実君）現在うところ、これから、この土地を確認するということでございまして、まだ、そういった将来の計画等については事務的に全然私ども承わっておりません。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）御質疑なしと認めます。

よって本案はこれにて討論省略原案通り可決いたします。御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決さいます。

日程第六議案第六十二号を上程いたします。

二四番（島野茂樹郎君）二つばかり御質問いたしたいと思ひます。

二つ市が行なう宣言でございますが、これは法的な効力といまようか。

そういう宣言というものの意義といたういかもしませんが、そういうものについて御説明いたしたいと思います。

それから、この宣言によって先だての御説明にすぎますとまず、市民にPRをするということ、境界線に標識を打てる、交通環境の改善ということ、おそらくそういうことだと思います。それともう一つ、女全協会に五万円を支払わせる。大体宣言をすることによって、その三つがことが、具体的問題として立証されるというふうに理解をしておりますが、まず、二で私もが考えるのは、もちろん市民の自覚というのも急務であるということともわがります。

一、一番問題になるのはやはり事故の多発個所を

改善をするとか、さらに立体交差というようなことを考
 えていかなければならない。また、そういうような面に力
 を入していかなければ宣言を幾らしても改善されていか
 ないのではないか。ですから、Rも当然必要であるし、
 ニー区域は交通と安全都市という標識も必要であろう
 と思います。そういう一連うことが終わったあとで交通安全
 都市とは、こういうような都市であるというような将来の展
 望といましようか。宣言都市にふさわしい都市は、こういう
 ような都市だということなあとがありまうたら、お聞かせいた
 だきたい。以上、二点について御答弁いただきたいと思います。
 ・助役(小出武男君)交通と安全都市宣言でございしますが、これに
 ついては法的な根拠ということになると別になんとも思いま
 す。要するに、一つは市が一般に宣言をして、一つは方向性を示
 すということだけであって、これによって法的な効果はない

と考えます。

ただ今、全国で去年の調査でござりますが、五百五十六市
ございます。が、そのうちで二百二十七市が、交通安全都市
を宣言してある。公明選挙六十四。その他、世界連邦平
和都市二十七。三つうふうになつてまいりて、一つ、宣言を
してゐるところが二百八十四。一市で二つ以上宣言してゐる
ところが八十九市ございます。

一市で三つ以上の宣言をしてゐるところが十六。四つ以上
宣言してゐるが二市というものが全目的な状況でございます。
二つは、いづれも、理事者なり、執行機関が、そのとき
に、応じまして、ポイントをとらえまして、市民とともに歩む
方向を示して、そうして行政の一環にそれを取り入れていく
というものが、わらうてであるというふうに考えます。

中におきましても、公明選挙の宣言をしまして、今回、安全

都市をしますれば二つ以上宣言をした都市に入るわけでございますが、宣言をした後におきましては、まず第一に考えますことは、まず市民とともに自覚し合うということであることが、先決であるということであり、それをするということとを第一義的に考えました。今年はその途中でございまして、もつぱらそれに力を尽くそうとやないかということを一応本年度の目標にいたしましたのでございまして、今後は、そういうことによつて市民と或いは関係機関と相ともに市内から交通事故をなくするということのためにいろいろ取り上げる問題も出てくると思ひます。これからつきましては、相当多方面に、しかも相当多額な予算を要する問題があると思ひます。一挙にこれがとうていできませんが、そうときどきに相談をしまして、必要なものから解決をしていく。こういう方向に進

みたいと思つてございまして、とりあえず、本年度の目標として、ポスターをくばるとか、或いは、市の入口に、市内の要所に標示板を立てて、そうして外部からきた人に対して、館山市は、安全都市だ、うかつなことはできないぞ、という気持ちを、持つてもらうことと、市民としては、安全都市を、た手前交通事故は起きない、というではないか、というふうな、気構えを、内外ともに持つてもらう、ということを考えなければなりません。

二、次のやるべき問題につきましても、ただ今、申しましたように、徐々に計画をして、実施していきたい、というのが、ただ今、考え方です。

・二五番（萩生田七郎君）六十二号議案は、まことに結構な趣旨の宣言で、全面的に賛成いたしますが、ただ参考までに、交通安全に関する運動、諸経費等を、一体どこから出

しているかということになりますと、市長さんご存じで
ありまするが、交通安全協会という警察の外部団体
が自動車教習所を運営してその利益を全部あげて
この運動に投入しておる。年間三、四百万あるでしょう。

その点、従来努力して参ったのでありますが、交通地獄は
深刻化した現在、これは地方自治法にのっとって交通、安
和、危険防止うためにはやらなければならぬ。そういう観
点から、この基本線を提示したものであります。私はまことに
時宜に滴したものと賛成いたします。

今、助役さんが申さよました。宣言した以上、ある程度、金
はかかる。従来も交通安全協会として助成してありまするが、
二、三の方と密接な連絡を取って、完璧を期してもらいたい
四年後には現在の自動車倍になると承つてゐる。
交通戦争の激化は必至でござります。

敬告察、安全協会等と連絡の點もとに進んでもらいたい
ことをお願いいたしまして本案に賛成いたします。

○一〇番(汁田実君)この点につきまして先般市長の記者会見
の中で漏らされたものではなかつたかということをご承ております。
所管課も商工観光課に置くということでございますが、
それについて伺いたいわけでございます。

都市宣言、それも今は現状からいつて、交通事故が多発し
ているということで結構だと思ひます。

私は気にするものは、今申し上げた点でございます。宣言の本
文といたしまして、交通環境の改善を推めるということと
市民一丸となって安全交通の自覚ということが打ち出さ
れておるわけでございまして、その点につきまして、観光課の
中でやっていたのだ。こういう形が記者発表の中で市長
の談話で出ておりますけれども、その点、真実なのか、お伺

いたいわけでございます。

特に教育啓蒙ということになると、社会教育なり、そういう面で根本的にやらねばならないというふうに思っております。

環境整備というものを重点にやっていくと、現在、交通事故に対する考え方はいろいろありまうが、先般県政で出た実態調査でみまると、交通法規を守っていても、避けていけないような箇所がある。館山市

も五、六カ所がある。鏡浦亭の前なんかは、普通にやっても、事故が避けていけないということで、調査でまわったが、

そういう点を、道路行政の中で改善していくということで、所管課が移っていくのではないかと、いうふうに思っております。

だが、新聞によておる内容というものは、どういふ経緯で、また、

もうか、将来、宣言にそてていくということ、で、観光課なり、所管課について、どういふふうな結びついていくか、ということに

ついてまず、お伺いしたい。

二番目にこの宣言は、市の現実をなげめた中で、当局の方から提案されたものか、さもなければ、交通安全協会とかという要望に基いて作ったか、その点についてお伺いしたいわけです。このことは要するに市民と協働してやっていくのだという気構えで市長の方から呼びかけられたのか、参考にお伺いしたいと思います。

・市長(本間譲君) 本年五月に行なわれまいが市民都市宣言の会、これはやはり警察署からも話がありまして、私も必要じゃないかということ、私が市民の代表として開催してやったわけでございます。

そういう意味からいまして、どうしてもこういうふうな交通事故をなくするには、やはり正式の市会の議決を経て施策を講ずることが、適当だということでも願

いゝわけでございますが、所管課につきましてもとりあ
えず、商工業業者商店会ということが大きな影響を以て
いるわけでございます。商工課内に観光係を十月一日
から一人任命してあらゆる方面と連絡を取つて、その
目的を達成したいと考えているわけでございます。も
ちろん道路の問題についても、そこに問題が出てくる
わけでございますが、総合的にやろう。交通課位、設ける位
がいいではないかと思ひますが、現在においては観光課内に
交通係を置いてやろうと思ひます。

○一番(井田実君) そういう御趣旨でございますれば、観光
課という名前が市民の中でも非常に誤解されている面も
ございますし、市の行政の内容でございますから、特にこうこ
うということも申し上げませんが、やはり宣言をいたすには、
商工業者のみで要請に基いて、せうと連絡を取るとい

うことでなく、都市計画の中とか、さらに学校の子供とか、市民ということになるわけでございますから、もっと根本的な対策が講じられるような交通事故対策と直結するような建設課、土木課等に移管するなり、そういう点を考えて万全を期すようにお願いいたし、まして打ち切ります。

二四番(志村信作君) 現在九月二十五日から十月四日まで、秋の交通安全運動期間に入っておりますが、これは、県からのものでなく、市独自でやたと承わっておりますが、県から何らかの指令があったかどうか、重わたる伺いますことと、さきほどリポートだとなつてきた、全く漠然としておりますが、PRの方法をどういうふうにしますか、お聞きしたいと思ひます。

・市長(本間譲君) 特別版の広報をふいて、広報の上からPRする。こういう考え方を持っております。

別に県の方からはございません。警察ではございません。

いとも。

一四番(志村信作君) これはなかなか範囲が広うございまして、市内だけの車両でなく、市民だけでもないんですが、このPRの区域、どういうふうにも考えになっておりますわ。宣言する区域は。

・市長(本間康君) 広ければ広いほどよろしいわけでございますが、まず市民を対象にしてありますから、市内。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(田中祿郎君) 御質疑なしと認めます。よって、本案は討論省略原案通り、可決するに御異議ありませんか。
(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よって、本案は原案通り可決さるゝた。

日程第七、議案第六十三号を上程いたします。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 御質疑なしと認めます。よって本案は討論省略原案通り可決いたします。御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決いたします。日程第八、議案第六十四号を上程いたします。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 御質疑なしと認めます。よって本案は討論省略原案通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決いたします。

暫時休憩いたします。

午後四時三十二分 休憩

午後四時四十二分 再開

議長(田中祿郎君)休憩前に引き続き本議を開きます。

日程第九議案第六十五号を上程いたします。

一三番(菊井敏博君)三点ほどお聞きます。第一点は駅前
文番建設寄付金九十万円少し多いような気がします。が、
こゝについて

第二点は振興施策課題調査委託費。館山市発展の
ために調査費ということが使われておりますが、今後どう
位追加があるのか。これで終りならば館山市、何らかの青
写真がいつ頃でき上がるのか。

第三点 さざ波、竹原青年館におきまして、建坪は何坪

位敷地は何坪位、つつあるのか、この三点についてお聞
かせ願いたいと思います。

。助役（小虫武男君）私から第一点、駅前交番、地元負担
金について申し上げます。

地蔵法から行きますれば、こういうことが果たしていかどうか
問題でございますが、今、横倒と申しますか、果は、公安行
政について、派出所とか、駐在所のようなものについては、地え
に協力をあおむいでより、土もつを作つて、こういうことをや
つておるうてございまして、今回、市に対して要望は二カ所
ございしますが、そのうち、一カ所は駅前、交番でございます
このについては、大体予算が百五十万円ということでございます
それについて、市が九十万、県が六十万、という割り当てになってお
るうてございします。そこで、この比率の問題ですが、これに
ついて、各町村その他、面も正確な調べでございせんか、

敬言察署長さん、調べをみますと、館山市については、大
十方は、果て負担が大きくて百五十万の比率からいくと、
市は少なうかであるという話でございますが、こいについて
は、実は西岬の要望もござります。こういう関係があります
ので、地元一市にそういう何か所もということでは比率を甘
くゆたということも承わっておりますが、九十万ということ
要請をそのまま受けて負担するということではございま
す。こいに対して別に計算上の根拠ということについてはござ
いません。私ももとてはわからないので、そういうふうにお願
いしたいということだけを了解したというふうに御了承願
いしたいと思います。

企画課長(右貝茂生君)第三点につきましてお答えいたします。

一昨年市勢振興部総合調査を実施いたしましたのが報
告が譯しましたために、昨年報告会を開きましてその後

それらを資料にいたしまして長期計画の策定に取りかかった
のでありますが、特に専門家の助言・指導というものをやら
なければ長期的な計画もでき得ないということとで、商工関係
の診断を昨年の事業としてやりまして、今年六月
に報告がออกมาつたので、それらに基いて商工関係の計
画は現在やつております。お手元にその内容を参考まで
に、おくづけいたしまして、観光部門につきましても、一応
本年度予算で二十万円御決議を願ひましたが、果に
お願ひして日本観光協会をあつせん願つたわけでござい
ます。観光が特殊部門で特に、以上う効果を望
むということになると、都市計画の関係の先生とか、造園
関係の先生とか、いろいろな関係の先生を網羅してやること
が、より効果的だということとで、交渉の結果では、二十万円不足
をきたしたので、今回追加をお願いいたわけでござります。

この診断をお願いいたします。最終的に終るわけではございまして、大体今回の補正が御決議いただきますれば、十月いっぱい位までに大体診断を了りまして、これを長期計画の最終的な計画として、観光が終り、総合的にまとめたいということ、これで診断が終る予定でございます。

福祉事務所長(鵜沢貫寛君)第三点についてお答えいたします。さざ波青年館建坪二十坪、敷地三十・竹原二十坪の建坪、敷地四十坪を予定しております。

一三番(菊井敏博君)第一点、交番、建設費に対して参考までにお聞きしたいんですが、今後現在の敬言寮署の改築のような場合が今後起こると思うんですが、そういう場合はやはり三というところが一つ例になるのか、将来のためにお聞きしたいことが一点。

二点目の調査料のことにつきましては十月といいますが、本間市長もあと一年になるので人のことを配するのではございませんが、館山市の基礎になるのでできるだけ早く作っていただきたい。

第三点につきましては後目のためにお願いしたいんですが、さぞ波青年館という問題につきまして後目問題が起きた場合には、これはどういうふうな責任になるのか、これを聞かしていただきたい。そういうことはなと思います。いろんな事情で建てられなくなったということについてはどうに責任があるか、お聞かせ願いたいと思います。

・助役(小出武男君) 駅前交番の負担にからみまして今後どうかということでございますが、これはいろいろな角度からいえると思います。原則としては御承知のとおり、国が財産は、国が果敢財産は果敢でやるということがたてまえてございます。

が、こゝに特殊なものというところがあるかもしれないが、地えとて、協力をするという考え方もあるわけですが、今までは、そういうふうになつてまいり、できるだけ、そういうことをなくしてもらいたいと申しますが、仮りに、あるに、まゝでも、地えの負担率を減らしてもらつたという方向に運動はしてありますが、やはり、好ましくない事態でございしますが、今後もあるのではないかと、いうふうに推察いたします。現況では、そういうふうに考えます。

。福祉事務所長（鵜沢資寛君）青年館の敷地決定につき

まゝでは地えにおいて、選定していただくというふうにお願ひしてまいります。もう、そう敷地が地えで決定しない場合には、或いは、この事情はできないということになる場合も、予想されるわけでございしますが、私の方としては、何とか、そういうことのないように地えにも願ひ、まゝで、建設できるように

努力していただくようお願いして建設したいというふう
に考えております。

・三番(菊井敏博君)お聞きします。さざ波館の敷地は三十坪ということは間違いないでしょうか。あの敷地の建ぺい率は何割かということをお教えしていただきたいと思います。

・福祉事務所長(鶴沢寛君)現在さざ波館の敷地はご存じのやうに前面に菊井さんの土地があるわけですが、その土地をお借りすることができるということをお教えの区長から聞いておりますので、その場で果し方にも申請をおして
いるわけでございます。

・三番(菊井敏博君)私も名前が出たのでいいんですが、私も全然知らない。さういふ方から御相談受けたことはない。私の名前が出るとさういふ面でお話するから、あの建ぺい率は何割か、特例で十割かということをお聞きしたかった。

・福祉事務所長(鶴沢貫寛君)おっしやる

・福祉事務所長(鶴沢貫寛君)おっしやるとなり、さぞ波青羊館の敷地だけで、おそろく建てることは無理だと思います。

ですから、名前を申し上げて失礼かもしれませんが、その方が敷地を借りなければ建てることは不可能だというふうに考えております。

・三番(菊井敏博君)いろいろ事情があると思うんですけども、いさくも、こういう予算にのる場合にはある程度の基礎にたつて隣接のいろいろの方たち、意見を聞いてやるべきだと思ふ。これによつて非常に不愉快な面が出てくる。何かの故障が出てくる。権威ある議会、議決がむだになるということ、私は恐れるわけですから、老破屋にならう、お尋ねいたしました。結構です。

・一一番(石井正君)企画費の關係で市民館についてお伺

いいんですが、市民館についてのいろいろな費用がのつておりませんが、当初土地の買収関係で五百万でいたか、当初予算にのつておる。この当初予算に会議等の経費がのつていないのでお聞きになった際にいろいろお答えがございましたが、今までに一度も会議が招集されていません。

これから土地の買収関係、そのような問題でどうなさけるつもりか、またどの辺まで進行しておるか、その点お伺いしたい。

次に民生費の亀ヶ原の遊園地に三十二万円が決定して出ておるんですが、この決定をされた経過についてお伺いしたいと思うわけです。私々考えでは、これは亀ヶ原一カ所であるけれども、二カだけの金があるならば、たとえば五万でも各地の遊園地の器具設定を少く多くすることが望ましいように思うけれども、この点の考え方を聞きたい。

わけです。なお、今後、どのような考え方で進まれるか、この点についても教えていただきたい。

次に商工関係で両国が花火に寄付金が出ておるけれども、こういう関係でこれまで寄付金が流れておるのか。これは毎年行なっておったものか。この点についてももう少し詳しくとも伺いたい。

次に教育費の関係で長狭高校が五十万の寄付金について、一応説明を受けたいけれども、これは例えば館山高校で今回体育館を新設するという場合には、町村の割り当てで行なうような形態で寄付がもらえるのかどうか。

今までの関係について、詳細にも願いたい。なお、関連して、問題がこれには、はずれるかもしれませんが、房南中学校に調査費として二百万円組まれておりまいないけれども、聞くとこちらになりますと、合併問題等いろいろ問題が

出ておつて房南中学校の調査費二百万円組んだけれども、何もやつていないようなことを聞いておるんですが、この調査は今までう経緯を明らかにしていただきたい。以上。

・助役(小虫武男君) 私から第一点の体育館関係について、市民館ですか。これについては御指摘通り本年度五百万円の用地買収費として計上してございます。

当市としましてこの事業は画期的な事業でございまして、適当な場所を選考にひきつておるわけでございます。形態も体育館と市民館兼用にするか。そういうことも残されておりますが、いづれにいたしましても、市として大きな公会堂を持つということについてはわかりないのでございまして、どう場所を持つていくかということに非常に頭を悩ましておるわけでございまして、この点についてはすでに体育協会にも実は内々話して適当な土地を選考まで

いなくても申し込を願つてゐるやうなわけでございます。
市として一、二カ所の候補地を描いてゐるのでござ
います。が、二つについてすぐここで発表する段階には
至りませんが、農地の問題非常にやまこゝいもうが、
ございすので、あらゆる情勢を見定めてまとめたい
かたいと思います。今ここでどこだということをおし上げ
る段階に至つておりません。

いづれにしても、市長の考え方としては、来年度当初予
算には盛らうと思はないかというやうなお話もございす。
で、できるだけ早く場所の決定をいたしまして来年度
の当初に備えないというふうに考えておりますので、不満
足ながら今場所について構構想もちつと申し上げ
ることを遠慮をされていただきたい。

長狭高校の問題ですが、確か五百万円の市町村負担

二ういう一つりたてまえを取りまして、それを均等割平均割
それから生徒数或いは卒業生、二ういうふうな基準を取
りまして積算の基礎にしておるように考えます。

そこで、館山市は五十万円、それから私記憶では鴨リが
百二十万位だと思ひますが、館山市が五十万である。卒業
生割二五%在校生で二五%人口割二五%平均で二五%
二ういうことで、郡市で五百万円、二ういう計算でござい
ます。参考に申し上げますと、鴨リが百十九万、三芳が十四万六千円、
千倉で三十二万四千円、江見四十五万三千円、天津小湊五十五万
一千円、二うのが概況でございします。

館高の問題につきましては、今度、果^会廿で一応提案をいた
しておるようでございます。で、提案の趣旨は聞いてきてお
ります。が、まだ確定してございせんから申し上げられません。が
当初予定よりも、むしろ減りまして、規模が小さくなつてゐる

ようでございます。

四百三十坪位の建物でこれは一高まりも百坪位、大きい体育館になる予定でございます。これについての負担金は、代表的に対象としては、市が持つということにしております。市が名目的な代表として負担するわけですが、町村の方にもお願いをすることです。すでに当初に町村の方にわたりをつけてございまして、今後幾たびか負担が出るわけでございますが、その都度お願いをいたしていく。こういう方針を取りまいるので、今回の負担が大体千三百万前後と大体推定します。そうすると、それに対して市と町村とそれから、P・T・Aの三者でそれを適当にお願いしたいと思つたわけでございますが、集り予算が固まり、次で負担金額がきまりますので、そのときに町村長にお集まり願つてお願いするというふうに考えております。

従いまゝて、今度のことも一つのお付き合ひの音に味もございま
すので、鴨川の学校ですが、こちらの場合には、鴨川の方
からいただかなければならないという事情もございまして、
今回も機会に出していきたいというふうに考えたわけでござ
います。

・商工観光課長（小沢正治君）新西国の花火大会の関係についても手
おいたしますが、これはかつての加納構想に基いて、東京湾横断
架橋に端を発しまして、横断架橋の実現を期して、神奈川
県と千葉県について、氣勢を上げようということで、横須賀
と富津の海岸で同時に大花火大会を開催してこの実現
を期するというようなことが一昨年行なわれて、このとき
には一応両県が主体性を持っていますが、各県の観光
協会が主体ということでは実施されなわけでございます。

その後、名目はそのまま残っておるのですが、実質的

な主催が地元市町村に移った形になりまして、現在では、横須賀市と富津町が中心でこの行事をあくまで継続しようという意欲に燃えているということに伺っております。関係各範囲の市町村に対しまする負担の要求でございしまするが、これはやはり地元といいたしましても、非常にぐあいが悪いという考え方を持っておられるようでございます。負担の配分については削減してきております。

第一回が十万円で現在では二分之一以下になっておりますが、ただ困りまするは例年継続的に行なわれるかどうかということ。がはつきりいたしませんで、どうしても追加でお願いするところの形が出てくるわけでございます。以上でございます。

・福祉事務所長(鵜沢貫寛君) 亀ヶ原の遊園地につきましてお答えいたします。

これは亀ヶ原地区に七百坪地元民の方々が勤労奉仕で整地

をさしめて、なまなま集う方から十五万円、補助もあります。関係で同額を市費をもちまして三十二万円で遊具を作ろうというものでございます。なお、各地区に小さな遊園地がありまして、それに対する遊具の要望も出てゐるわけでございますが、これにつきましては、年度途中でもありますので、新年度において考えていきたいというふうに考えております。

・教育長(押本禧悦君) 房南中学校の建築調査費の件でございますが、年度当初より房南中学校の新建築につきまして、まず、学校長にどんな規模、どんな設計という平面的なものでございますけれども、どういうふうな教室配置を要望するかということでは、まず、学校地と関係で要望書を出して、なお、そのあつた敷地内、いかなる場所に建設するか、こういうことについて考え方を、出すようにということをお願いいたします。

ちがて、学校長から現在の敷地の南の方の部に九
 学年度教室でございすが、その他管理室、取員室
 とか、特別教室等を含めて三階建の要望を持つて
 こらへたわけでございます。二につきまして私どもは建
 築課の方にさらに二を専門的な立場からあそこの
 土地に合うような建築の設計をお願いしたいとい
 うことでも願いたいわけでございますが、それもある程度は建
 築課設計ができて、ちやうどその際にたまに市教
 育十年計画という中に生徒数かまだまだ、ここ数年の間
 は減少していきますし、なお、小中学校で二十校というよう
 なたくさん学校がありますので、将来、学校建築というも
 のも特に鉄筋化がなされる方向に向かつてまいりますので
 そうしたために費用もかかりますので、この機会に統合
 というような問題を十分討議して、そうして、三という

ことになりまして、中学校につきましても、まだ原案の原案、
始めの案位でございしますが、今や七校を三校位にしたらと
いう案が現在出てゐるわけでございします。

それらは、学校規模を文部省で十二学級から二十四学級位
がもつとも、適切な学校規模である。それより下であります
と、取員定数、やはり養護とか事務とか、こういう取員も
なかなか得られない。専門の取員もなかなか得られないと
いうふうなことも等もありまして、そういうような資料を集
め検討し、さらにこれからいろいろ地元の方々や学識経
験者や、さらに文教委員の方々とも、ちよつとお話したこ
とがございしますが、今後もう少し、資料を集めてなるべく早
く最終段階のところをきめよう、という案がออกมาつたので、
その後本設計に入る前にストップになつております。

現在そんな事情になつておりますので、御報告にお答え申

上げたいと思います。

二番(石井正君) 二点について要望して打ち切りたいと思ひます。市民館につきまゝては土地も決定がまだ確定してないので、議会に報告できないということは了解しますけれども、今助役さんのお話を聞きますと、いろいろ検討して集まりがあるように聞くんですが、なぜその過程において準備委員会を開かないのか。準備委員の中には、館高の体育館を一時市が借りるのだと、市が借りて使用するというふうなことで、いつておる準備委員がある。一般市民においてはなおさらのこと、館高に体育館ができるから市民館の話は打ち切りということをして言われておる矢張りなうで、その点十分お考えいただき準備委員会等を御利用いただきたいことを要望いたします。

それから、遊園地の問題ですが、土地の寄付とか作業の提供というお話があったが、それは亀ヶ原ばかりでなく、各地でそういうことをやっておるように聞いております。交通事故が非常に多いので、遊び場というものは非常に考えておりまして、土地を無料で提供したり、遊具を寄付したり、ということろが方々、実際にある。そこで私は先ほど要望一まーだが、新年度云々というお答えがありまして了解しておきますが、努めて各地に少量でいい補助をしていただいて、その目的を達成することのできるように御協力をお願いしたい。以上要望一まーて打ち切りたいと思います。

・三二番（三沢節君）一、二質問いたしますが、最初に民生費の見童福祉費の中にスポーツ少年団の補助として五万上っておりますが、これは現在スポーツ少年団ができているものに対しての補助か、育成するための補助か。

次に清掃費の中になだ今十万円を追加を計上されております。

この十万円に対しては、船形、新井地区新規加入分だ。そうおつゝまっておりますけれども、現在、容器収集をやつておる家庭がどう位あり、容器収集でない家庭がどう位あり、いかもそう一日の収集量がどう位あるか、この点について御質問いたしたいと思います。

・福祉事務所長（鵜沢貫寛君）お答えいたします。スポーツ少年団に対する補助は、スポーツ少年団を結成した場合の補助でございます。一万円でございます。そのうち五千円が果て補助、同額市費負担というふうになっております。

・衛生施設課長（吉田耕一君）お答えいたします。現在までに容器収集になりまして戸数でございますが、三十八、九年度におきまして、六千六百六十六戸出ておるわけでございます。

四十年度当初におきまして、残りの数を計画しようという計画でいたが、なかなか見通しもはっきりつきませんので、九月のこの会議におきまして、今までの見通しを把握いたしまして、今回お願いしようというものでございまして、大体残りにつきましては、二百五十世帯位というふうにみておるわけで、これも合わせまして、六千九百六十世帯位、それを特別清掃地域内、総世帯数というふうに私ども把握しておるわけでございます。以上でございます。

・三三番(三沢節君) スポーツ少年団、これから結成するということですが、これは市の方へ各地区でもって、こういうものを作りますから、ということによって、一百万づつ、助成をするんですが、或いは現状で三三と三三という目安があるのか。

それから清掃の方でございしますが、概略七千戸でございすけれども、一日の収集量はどの位あり、しかも現状でその収

集が間に合つておるかどうか、この点もう少しお聞かせ願ひたいと思います。

福祉事務所長(鵜沢貴寛君) スポーツ少年団は各地区で結成いたしまして、私の方で教育委員会で結成を奨励してあります。すが、結成しただけなら申請をしてもらつてそこに補助しない。衛生施設課長(吉田耕一君) お答へ申し上げます。一日の収集量でございますが、大体貴とカキロでやつておるわけでございます。すが、本市におきましてはそういう設備がございませんので、はつきりな量目はわかりませんが、現在、六台の小型トラックで収集しておるわけでございます。従いまして、平均いたしますと、二回強になるというふうに考えておるわけで、館山地区、或いは船形地区というふうな場合、半日に一回程度ということでございます。

現在の設備では十分に収集ができてないという現状でござ

ございます。今後なお、器具の改善等をいたしまして、機械化に尽力いたしたい。このように現在、努力いたしておる次第でございます。

・三二番(三沢節君) 大体話はわかりました。昨年、近代的な収集車を是非買ってもらいたいという要望書には、目に二十トンあるということをお記憶しておりますが、それだけあって足りないから、近代的な収集車を買ってもらいたいというので、議会を請うておると思っております。

たまたま買った収集車が買いうる早々、可動できないという状況になっておるんですが、その後修理したということとは、聞いておりますが、その二台を何とか可動することができるような課長さん、御意に思われますかどうか。この点をお尋ねいたします。

・衛生施設課長(吉田耕一君) お答えいたします。確かに九年

度でお願いいたしましてロードパッカーという収集車を購入いたしたわけでございます。御指摘のように購入いたしましてものが完全に使えないというのが現状でございますましてこの処置といたしまして現在契約いたしまして会社と交渉をいたしております。相当修理等をいたしまして、現在見込がございせんので、一応解約というふうなもう、そうして新しい別個の信用を持てる完全なロードパッカー的な車にかえていきたい。このように現在考えておるわけでございまして、市長、助役等にも、私ども契約を取り扱います点について謝罪を申し上げて、その方向で何とか一日も早く完全な車にかえていきたい。このように考えておる次第でありまして、私どもの失敗に対しては、心からおわび申し上げます。今後かかるようなことではないように、いっそう努力をいたしたい。このように考える次第で

あります。

・三二番(三沢 節 君)課長さんの御趣旨はよくわかりますが、
現在、予算だけ審議の対象としてあと契約する場合で
も議会に示してもらえないんですわ。それだからといっていい
わるいというものをよく調査しないで売買契約をなさね
るということになると非常にずさんではないかと私思うのでござ
います。が、たとえば、予算が通つても、小さい備品一つ買う
にも慎重に慎重を期して課長としては、今後やっていただ
きたい。買ってしまつたあとで使えない。修理がきかないと
いうような売買は絶対にもらいたくない。

課長は修理不能であるから、今、申さねたように処置する
ということは、非常に結構ですけれども、そういうことがあつては
いけないんです。

これは、今後は絶対に注意してもらいたいので、たとえば一つ、

品物を買うにも慎重を期して議会にかけたと同じような気持ちで買っていたのだきというのを要望いたしまして質問を打ち切ります。

ニ七番(鳩田繁君) 先ほど石井議員の質問がございました。御答弁がございました。

それに関連して私も一つ伺いたい。

学校統合問題にかうんで、房南の二百万円の調査設計費ですか。ストッププーてそのままに放置してある。こういうことですが、大体計画が一ツかり立っておつてもなかなか実現というまでには、相当の時間がかかります。

まして学校というような学区の統合という大きな問題についてはもう相当にここで調査をとげまして確たる信念を持った計画がそこに打ち立てられて、それからかかつても、なかなか時日をする。ましてまだその片りん

さへ伺うことも出来ません。ほとんど今五里霧中という
ような状況ではないかと思えます。

慎重に慎重を要してやるべきこの学校の問題について
まだ片りんさえできていない。その統合にかつて計上
せられたその予算がストップになるというのでは、その責任と
いうことを考えざるを得ないと私はこういうふうに考える
ものでございます。そこで房南のあることは御承知いただ
ろうからあえていう必要はございません。そこで統合・統合
ということにかつておりますが統合はあと数年はか
かるうと思います。実現までには、それにかつて一方
のやりなさいと言わねば計上せられない予算をスト
ップしてそのままにしておる。これが数年できないでいか
予算を流してしまふ。一かて、学校の建物はああいう
危険状態に迫っておる。こういう場合にあぶりは取らず

というような非常な悪い事態にぶつかれる
 と私はこう憂えるものであります。それについて、教育長
 さんは「ツクリ」に見通しを持っておられるかどうか、何年後
 にどう位の時日において、この実現をいたすか、いたさせるか、
 これによって、この二百方はストップしておく。こういう確たるこ
 ころが見通しが必要ではならない。

教育委員会はそれ位う信念、それ位う調査計画というも
 のを持って、初めて一方は「ミ」しておく。止めておく。
 これは議員で決議してあなた方がやりますと、決議して
 下さい、というて出た。その予算をストップするんですから、や
 り相対う信念を持った計画が「ミ」になければならぬ。
 先ほども言うとおり、それが片りんも出ておられない。そこで
 ストップしておくからには、この後どう位の時日をもって「ミ」
 実現を期そうとする見通しを抱かなくてはなるか、そうす

こゝがある期間を過ぎた場合に果たして房南のあの建物が危険にひんておる建物をもつて、そうして児童の安全というやうなものを責任を持って確保しておく。責任を持って守るといふ御信念がありますか。どうか。その賛点についてここで御質問いたしたい。こう思います。

議長(田中祿郎君) 会議時間も迫りまいだが、議事の都合により、あらかじめこゝを延長いたしたいと思ひます。こゝに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よつて、会議時間、延長さしよめた。

教育長(押本禧逸君) ただ今鳩田議員さんのお言葉、まことにぞつとありと私も思ふふりが多々ございますが、房南中学校が統合の中に入っているわけでございまして、統合

案というふうなものを本当はこゝから吟味するわけでござい
ますが、まだ片りんさえもなつとこゝろおつていますが、片りん
位は、実はあるわけでございます。統合案がある程度で
きて、こゝが一挙に解決することはとうていできません
ことで、多分鉄筋の建築でございまして、毎年一つ
づつ鉄筋化ということも、私どもは配するわけでござい
ますが、数年かかることはもちろんだと思ひます。
もし、統合案というふうなものがいつまでということでも
ございますが、今のところ、今年いっぱいまでできるか、十二月まで
でやるべく早く作ろう。御審議をいただきますと、それぞ
の会で審議していただくと思ひておりますが、十二月
まででできるかどうか、申し上げる段階に至つておりませ
んが、なるべく早い機会にやらなければならぬ問題だ
と思ひてゐるわけでございます。

そこでもし、房南中学校の今の実情のままです。まだ数年
先に延ばすということとは、そういうことはしてはならないとい
うことは私もよく承知しておりますので、ただ、ここで九
学校といふ房南中学をすぐ建ててしまつて、あとではか
ゝ統合案の一角がくずれるわけでございますので、そう
いうことでよいかどうかということについては、もう少し慎重な
論議を委員会はもちろん先ほど申し上げましたよう
に文教委員さんや地元やいろいろ識者の方々にも御意見
をちょうだいしてやらなければならぬ。こういうようなこと
でいつまでというようなことはちつと今発表できる段階になつてお
りません。

まことに申し分けございませんが、現在考えているのはそういうこ
とでございます。

・二七番(嶋田繁君)片りんではない、相当に御計画をお持ち

のようなお言葉でございますが、それならば私は結構だと思ひます。 そうなつてみまへたならば、願わくはこの計画を早急にやつて、さうしてはつきりときめてもらう。 二ヶが必要だらうと思つております。

今年、いっぱいそれをきめるといふ御意思のようになつて承ります。 それならば結構でございます。 そうした場合に二ヶ調査費が、二ヶがそのままお流しといふか、三ヶに立ちまゐりはないかと思ひますが、もしそれが、私は先ゆきのことを案ずるものですが、二年も三年も延びた場合に果して教育長さんは、どういう責任をお取りにならうとするのか。 十二月いっぱい計画がおできになる。 結構です。 それがきまれば結構です。 私はきまらなかつたと思ふ。 必らず一年と二年は延びると思ひますが、そうすると、一方調査費はお流し、あふはり取らず。 そのときあなた御

決心うほどお聞かせ願いたい。それで安心したい。

一番(吉田勇治郎君)議事進行上、暫時休憩願います。

議長(田中祿郎君)暫時休憩いたします。

午後五時三十八分 休憩

午後六時十五分 再開

議長(田中祿郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。

教育長(押本禧逸君)先ほど発言いたしました統合問題について

でございますが、まだ実は検討の余地が私どもに非常に多いわけでございしますが、なるべく早い機会に伺いかうましましう案を作りまして、御検討いただく機会を作りたいたいと思ひますので御了承いただきお願ひ申し上げるわけでございます。

・二七番(鳴田繁君) 私はこの質問は打ち切りたいと存じますが、その前に一、二私の気持ちだけを表明していただきたいと思います。

私が片りんといったことに対して片りんではない。確たる信念があるというふうな御答弁であつた。これは教育委員会、正式に決定はなつてゐるが、茶飲や話的のものをもつてゐるということでは、^出てあまりおもしろくないのであります。従つてそういう言葉を使う以上は、正式の機関にかけて、それをもつて相応いするべきものであるというふうに私は考えます。これからもう一つ、ただいてはどうかと思う。

それから今一つは、調査、設計するという理由でふいふヨーナが、その信念を持つてかかつたものさち、つとめたこととして、それがすぐ流れるような流れることはなかつと思ひますが、ぐらついでくる。非常にめまぐるしい。信念、強さというものが、

疑われる。これだけではない。えてそうだ。途中から何か出たからこうする。ああするとうう気持ちでは私はだめだと思ひます。特に教育についてはもつと一ツかりとした信念を持つてゐた。以上はより通すという信念。途中で甘いわけがない。もうともつてぐらつくようなめまぐるしい。そういふ変転がないことが必要である。私は思ひます。そのことだけをこゝ議場で申し述べまゐて。こゝ質問は打ち切ります。

一七番(黒川佐太郎君) 実は私この問題はふせておいて発言しまいと思つたんですが、ところが教育長の方であつた。発言がありまゝなので、徹底的にやろうと思つたのである。ります。教育長は、いさか足つたというやうな意味のこゝとを申さなかつたので私は発言いたしません。

ただ一言、この問題は非常に重要問題である。それと世論や政治でなくてはならないということをもよく銘記

していただきたい。以上です。

一。番(辻田実君)ニ三についてお伺いしたいと思ひます。
 一つは先ほども申しております児童福祉施設費の中で
 今度新しく青年館ができるわけでございますけれども
 当初予算におきましても、そうでございますけれども、青
 年館の建設資金というものは得らるるが、運営資金
 そういふものが全然おさめていない。現在、豊房の青年館に
 しろ、館の青年館にしろ、現実の問題として、ある建物
 の保険料の支払い等についても、地元に払わせるとか、市の
 建物だから、市が払わなければならぬということ、宙に浮
 いておる。青年館の連絡会議というものがあつて、安房郡
 市の会合が二、三カ月に一回開かれる。青年館長というも
 のを、市の方で委嘱してございまして、これらの人に対する出張
 費、そういうこと等についても問題があるんですが、そういう点

について、全然予算処置が取られていない。それらについては、今度もさぞ波、や原青年館が出てゐるが、その問題とどうするか、まず第一点にお聞きしたいわけでございます。二番目に小規模草地改良事業について、補助金がついて行なわれるわけでございますけれども、正木地区に牧草地と作るということでございますが、その内容をもう少し教えていただきたい。この受益者はどう位あるのか、それと、それに伴う酪農の頭数、生産石数という点も伺いたい。二に關連いたしまして、青年館にしろ、児童遊園地にしろ、小規模改良事業にしろ、こういうものが指定をめぐつて何か基準、釈然としないものが伺われるが、どういう形でもって指定しているのか、市長さんにお伺いしたい。先ほども、一番議員が児童遊園地の問題にふくまいたが、二という制度があるということも全地区について

知っておるかという二点についても疑問がある。その制度を知っておくば申し込む人がたくさんある。こういう傾向がある。そういう問題について、どういう指導をしてゐるのか。どういう形で申し込めを受け付けなか。そういう過程について基準指導というものがついてお伺いしたいわけでございます。

もう一つは幼稚園の経費の中で産休取員への雇い上げ料が三十九万八千円、莫大だ。当初予算に三万六千円という少額でこういう四十万になんなんというふうなものがどうして追加でなければならぬのか。この点について非常に疑問を感じるわけでございます。この点についても伺いたい。以上三点について簡単に御答弁願ひたいと思ひます。

福祉事務所長（鶴沢貫寛君）お答えいたします。青年館の運営費でございますけれども、これは市が建物として

は、当然管理的な予算は市が計上すべきであります。が、青年館につきまゝでは将来地元に払い下げたいという意向もあります。その運営につきまゝでは、地元委託してあります。関係上、運営費につきまゝでも、市の方では予算化していかないわけでございます。当然市は建物とすれば、保険料位、市が計上しなければならぬという考え方は持っております。が、今申し上げるような事情にあります。で、地元の方の了解を得まゝて管理していただいております。わけでございます。

・農林水産課長(伊藤幸太郎君) 小規模改良事業について内容を御説明申し上げます。

今回、改良事業は、今お話をしまして、市内の正木地区が県の指定を受けまして、十ヘクタールの開闢墾とそれに對します牧草の植え付け、その他改良事業を含め

まゝて終事業費といひまゝて百九十四万八千円ノ事業費をもつて施行することになつたのでございます。

そのうちで、果て補助金が百四十五万八千円見込まれておりますので、残りの四十九万円は一応受益者負担といふことで計画されてゐるわけでございます。

一応事業の主体でございますけれども、館山市の畜産奨励委員会がございまして、その幹部の方とも話合つたのでございますが、面積は十町歩以上という相當広い面積を確保しなければならぬので、なかなか適当な地区がない。一かゝ正木地区におきまして生稻清さんほか五人名義を持ちまして、この事業をやってみようということでは、果て指定を受けたいわけでございます。

この利用範囲は五人だけのものではございませんで、広い範囲に考へていきたいという果の指導もでございますし、私も考へ

えております。

その内訳といたしましては、委託料といたしましては、農業開発公社に委託いたしまして。

需用費と役務費と賃金等の節が、この事業の費用でございます。それから申し上げたいと思ひますのは、このような施設が一応果かりの内示がございまして、場合に指定云々の問題がお話が出ましたので、申し上げますが、十町歩以上にわたる面積がございまして、なかなか希望等がございしても、地区の選定はむずかしいわけでございます。かような意味で内示に對しまして、今申し上げた一応の順序を経まして、正木地区を指定いたしたというわけでございまして、御了承願ひたいと思ひます。

・教委庶務課長(千場伊右エ門君)幼稚園、産休補助取員雇上げ料のことについて御説明申し上げます。

この中に含まれておりますものは当初産休補助取員の分
 としては一人分しかみておらなかつたのでございますが
 だんだんはつきりてきまして、北条幼稚園が四名ふえな
 次でございす。それからもう一つは、館山幼稚園の関
 係が当初大学級分しかみてなかつたのでございすか、
 学級増ということになりまして、その先生の分が二十万三千
 七百十五円というものが入りまして、もう一つは、小形ゆき子と
 いう取員が四月一日に入つたのでございす。その人が五月末
 に退取しまして、その臨時を頼まなければならぬということが
 ございまして、その分と合わせまして、三十九万七千二百円
 予算では三十九万八千円というものを追加した次でござ
 いす。

・市長(本間譲君) 青年会館の希望はあまりないです。
 ございせんので、今までは申し込み順序でやっております。

けれども、やはりたくさんありますよ。必要度いろいろ状況を
具備したものをやることにしております。

一〇番(辻田 実君) 二の指定の問題でござりますけれども、
全般にまたがるから市長さんに伺うんですが、果て補助
事業とか、そういうものによる農業とか、産業さらに青年
館、児童遊園、こういうものが何かそれをキャッチした人だ
けが知っておる。青年館の場合、青少年相談員がい
て知事がきて、こういう制度があるからこういうふうによ
りなさいということ徹底しておるけれども、児童遊園の
場合に全く知らない。

長須賀とか、船形とか、そういうところにあるものもよく
ついでにきけば、そういう制度でやしてもらいたいというのが、
あるんですが、一か一か、そういう制度そのものを知らないた
めになつていらい。

そういうものの徹底方法というんですがある特殊な人しか知らないという感じが今まで見受けらる。広い範囲で平等に希望者がある場合にはその中から選び出さる。明朗な選び方がさしてゐるかどうかその点についてお伺いしたい。

今後どうしていかということについても明確な御答弁をいただきたいということでございます。

・市長(本間 譲 君) いろいろそういう考えらる点があると思ひますが、今後におきましては、広報等でみなさんに周知徹底底さはかりたいと考えております。

・三五番(松本 藤太郎 君) 事務改善のことについて、ちよつとお尋ねしますが、最近 東京かどっかでエスターにかけらるということで委託料を払つてゐるわけですが、これによると人が書くより誤まりがないということ、で非常に信頼してゐた

んですが、最近何か三十位や人々ところに敬老会や通知がきたとかまだほかに聞くんですが、こういうことでは、実際に信頼できなくなっているんですが、そういったようなことで依頼ができなくて途中で一部依頼を取り消したために委託料が減ったとかどうか、二十万減った理由を教えていただきたいと思います。

それから、住民登録ですが、住民実態心調査七万というのがあります、昨年も実態心調査をやったのかどうか。

それから、いま一つ教育費の小学校の管理費の需用費の消耗品費が七万四千円、印刷製本が二万六千円追加になっておりますが、教えていただかない。以上三点について。

秘書課長（小倉澄男君）お答えいたします。事務改善の關係でございますが、機械にまわってありますと、手でやるよりも期間違いないということで我々もそう信じておつ

たわけでございますが、たまたま、エスターを使いました。最
初、印刷が、このたび、敬老会、通知に使われたのが、最
初、頃、もうでございまして、その内容につきまして、非常
に各所で間違いが出たということとを、発見いたしまして、
早速、東京の方に参りまして、こういうことではどうもいけ
ないということとで、嚴重に抗議を申し込んだら、ござい
ますが、現実といたしましては、ただ今、アンドカードの方
で非常にたくさん、ところと契約をしておるようござい
まいます。それは、さすが板にタイプでもって打ち込んで
おりまして、それをさらにプラスチックの台板、下に密
着させまして、その台板の中に穴をあけまして、それをよつ
て性別が出てくるわけでございますが、その穴をあけ
るとき、操作が間違いがあつたということとを、このたび
発見いたしまして、こういうことでは困るという抗議を

申し込んで今後、こういうことにならないように、ということ。早速
向こうでも一回印刷すると非常に費用がかかるので
ございしますが、そういう印刷費用を向こうで持つて修正し
ていきたいということ。私たちも一応間違いないよう
信じておるうでございす。一かある程度、間違ひ
は、予想されたうでございすが、それがいり多かつたと
いうことで、嚴重に抗議いたしまして結果、今後、こういう
ことにならない。それはいたゞ、まして、それまでに至る段階
が、非常に過程がございまして、我々も特に市民課が担
当、取算も、税金、二枚に打ち込んでおるうでございすが、
たまたま、やるべきところを落したという手、違ひもござい
まして、それに加えて、向こう、取算が間違えた。何とも
申し分けないと思つております。二枚も、現在、委託をして
おるといふ形であるために、こういうような間違ひが起る

ということでは早速米沢と。そういうようなエスターを自分たちで持っているところに照会いたしましなところがあるが、ああいうところにおいては、そういう間違いはなくなつておるのだという回答を得まして何とか館山市でもそれを買いたいという気持ちを持ったわけでございますが、これもあととは我々の努力次第でございます。セツかく、こういうふうによつて参うたんだから、何とかその体制を正常なものにしたいということでは、関係課の取算、我々も一生懸命にやりまして努力いたしてある次第でございます。

事実、お年寄リなどに対して間違つた通知がいつたことは、恐縮でございます。いまさうどうにも申しあげられるわけに参りませんが、今後できるだけ努力をするということでも認めいただきます。願ひたいと思ひます。

なお、二十万円の更正は、選挙の基本人名簿でございます。

九月十五日現在で調製いたします。基本選挙人名簿を
実は、エスターにかけてある予定でございまして、九月十五
日を前にして住民の実態調査などをやります。関係上
なお、現在、住民台帳の誤謬が確実に二割あるという
ようなことを発見いたしまして、そういうようなことから、こ
ろびろ選挙人名簿はエスターの印刷にはいけないという
ことで、選挙人名簿調製のたぐひ費用とさらに値段等
の交渉によりまして、多少安く取り分を二十万削減
いたしまして、それを住民実態調査の方へ選挙人名簿
の方に回わした。そういうような事情でございします。

・市民課長(羽山房雄君)お答えいたします。

昨年度は、住民実態調査は実行いたしませんで、た
三十八年度におきまして、九月十五日現在で執行いたしまして
三十九年度は、事務改善による実態調査、住民票の関

係り実態に調査でなく事務改善のため実態調査を
実施しました。

。教委庶務課長(千場伊右衛門君) 小学校の学校管理費の
中の消耗品の七万四千円と印刷製本費二万六千円は今
年新たに北条小学校に言語障害の治療教室が設置
されたのでございますが、それに当初予算で備品費六十
万、消耗品費、六万四千円、印刷製本費、二万円等をお
願いたうてございますが、初めて設置されたものでござい
ますので、やはりいろいろ費用がかかりますので、あと十萬
追加をお願いした次第でございます。

。三五番(松本藤太郎君) 第一点、委託料、三十万、更正はわかり
ました。その中でパンチ、穴をあけることですが、それが誤
りだったということなんで、これは市の方の人が間違っただ
ではなく、向こうの委託を受けたアンドーの方で間違っただ

ということではないかと思うんですが、それに対して、努力を以て
云々ということですが、それはエスターを買うことに努力しよ
うということなんです。何を努力するのかわかるとは了解し
ました。それから、昨年は住民実態調査は、やらないうとい
うことですが、住民実態調査というのは、毎年やるように
なつておると思う。住民の実態を調査するということとは
いろいろな権利、義務の問題が生じてくる一番重要な
問題である。

事務改善のために、どこか去年はやらなかったというけれども
こういうもの、実態調査を実際によることによって、なぜ
義務を果たす、そうして、選挙権を当然行使する、或いは
子供の学会というようなことについても、漏れのないようにす
る。同じ市がやるんですから、課が違ふから別々だとい
うことではいけないと思う。そういうものをやるために、

館山で画期的な事務改善をやったと思う。エスターに
かけるだけではないと思う。合わせてそういうこともやって
いじりたい。むだな金もかからない。いっぺんでの確
なもうも出てくると思う。

今話を聞きますと、選挙人名簿もエスターにかける
ことは危険だという意味に取りまいたが、こういうふうにな
つてくるとわからなくなってしまう。選挙も来年あるん
でしょう。住民の実態調査というものは、今いったような
ものさき含^なならは、いっぺんに出てくるというようなところに
いくべきではないか。こう思うんですが、その点についての御
見解を聞かしていただきたい。

それから教育費、需用費ですが、この更正はわかりました
前回は質問に対して非常に克明にプリントしたものと
をいただきました。この中で今関連しますところの消耗品

について申し上げますと、全部申し上げられませんから、館山小学校の三十九年度を例にして、こゝ一つだけで質問いたいたいであります。三十九年度の館山小学校の消耗品費は、市から交付したものが三十一万六千三百七十九円となっております。こゝでは足りないということ、館山小学校では、一万六千六百七十九円です。こゝを父兄が負担してゐる。こういうふうなことでよろしいですね。そうなつていきますと、報償費は館山小学校には三十九年度は二万六千円出てゐる。こゝ二万六千円の内容というものは、児童報償、研究会、或いは講習会というものに対する報償費であるのかどうか、こゝをまず伺います。

それから父兄が同じ報償費を負担してゐるというが、三万九千四百五十円負担してゐる。こゝは休憩中に開いたときに今申し上げました児童報償、研究会、講習会

の報償費だところおつておる。

一番上の報償費は今言つたやうなものを含んだ二万六千円であるのか。或いは児童報償費は抜けておるのか。その点をお伺いいたします。

・秘書課長（小倉登男君）努力かという点でございしますが、これはエスターにかけまするプラカードを作成する要素になります。カードというものがあつてあります。それによりまして、プラカードにパンチを入れたりするわけでございまして、向こうについてパンチをさへたものを一応試験すりというものがございしますが、それをチェック合うということをして信頼してやらなかつたということもございまして、お互いにチェックをよくやらなかつた。

・市民課長（羽山房雄君）実態調査のことについてお答えいたします。

過去三十八年度に実態調査を実施いたしまして、窓口によります取置はもちろんでありますが、実態調査のために臨時取置を二名、これに当たらせまして、事前の一ヵ月半の準備をいたしまして、さらに実態調査員が調査して上ってきこえたものをトータルが、最終結果を待つのが十一月でした。そういう関係で非常に時間手数等がかかります関係もありまして、三十九年度におきましては、窓口が、統口された関係では、窓口で扱います移動、その他は、実態調査と等しいものであるという考えのもとに、当初予算におきまして、新年度又四十年度は、実態調査を実施しないのだという考えで、ただ今までおりまして、いろいろと、その間に私どもの市民に対するサービス不足、その他いろいろございしますが、市民の転居、転入、転出、その都度の届出が

励行されておられません。そういう面が、ぼつぼつ出て参ります。た、わけでも、九月十五日で選挙の基本選挙人名簿を作成しなければならぬ段階になって、どうしても、実態調査をやる必要がある。実は調査課、選挙管理委員会、市民課、秘書課、四者集まりまして、結論的に追加でもやるのだということになりまして、ただ今、調査員がそれぞれ地区に出て指導しております。これはあくまでも、調査員が届出がない市民が窓口に来て届出していただくという、いろいろ指導をして今後移動の都度、そのようにしていただくよう、できるだけPR。その他で努力して参りたい。こう考えております。
 ・学校教育課長（山根春夫君）松本議員さん、御質問の消耗品の問題でございますが、これは必ずしも一万六千六百六十五円足りなかつたからというわけではないと思っております。

の公開を持つまでに月にいっぺんなり必ずずといっているくらい。果て研究所あたりから指導者を呼んで講習を受け、研究の検討を続けてきたわけでございますが、そこで最初より市費費用二万六千円というのは研究会、講習会等の講師謝礼でございます。子供報償費は入っておりません。

や丁度の方で払っておるお金もおそらく講師のおみやげとか、そういうようなものが相当額出ておって、子供報償は、そうたくさんないと思います。さらに詳しいことは全体がトータルでなくて、これについては必要がありまらう調べにしたいと思います。

・三五番(松本藤太郎君)住民登録ですが、市民が届出をするということと義務がかわったんですが、だからといって、さうこなかったというんではいけない。窓口で実態調査ができて

得るということはありません。ですから、今後毎年やて、適正な公平な課税を当初に確定していただく。このように希望しておきます。

それから、学校の方ですが、不備だと言わねると何も言えなくなる。不備では困る、はつきりしたものをあてもらわなければ何にもならない。それはさておきまして、せっかく、こういうふうに作ったんですから、その中でする。非常に学校差がある。修繕費だけでも、館山小学校で五万二千九百七十一円足りないというて負担してある。いろいろたくさん出ておりますが、この中でどの程度までを一応教育委員会は線を引くのか。そういつためどもなくてはいけないうと思う。ここにきてきたもう、すっぱり今後費用を出すのだというお考えなのか。学校差は相当ある。学校によつては、ほとんどふえておる。

食料費でもここに似たものをすつかりやるのだということでは教育委員会としては現場の先生ではない。財政もわかってゐるはずだ。そういうことからいくとこをみただけではわからない。

かりに一步ゆづつて、こいだけ全部みてやろうという考えに
なつた場合、そうすると、館山小学校の場合は三十九年度
は児童一人当り七百三十四円ですわ。負担してゐるが、

四十年度は三十九年度より百四十五万七千円、小学校
校費はふえてゐる。こいも十三校で割つてはいけなから

児童数があるから五千八百名として除いた場合に、一人
二百五十円という三十九年度から四十年度に増がふて
ゐる。二百五十円というものは、四十年に減にならなければな

らない。二、三というふうに考えらる。ですからもういっぺん過
年度のことですからもう少し検討して実際に文書のつかつた

もう、そういう意味でこゝで打ち切りますが、そういうことを希望
して需用費関係は毎回出ますから、そのときに質問いたし
ます。不備だと言われればどうしようもない。ですから、いま
一内容を的確に御調査していただきたい。これを希望いたし
ます。以上。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）御質疑なしと認めます。さて本案は討論
省略原案通り可決するに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。よって本案は
原案通り可決いたしました。日程第十議案第六十六号乃至
議案第六十九号を一括上程いたします。

一六番（関武夫君）保健衛生課長さんにお伺いいたします。
前年度の赤字に對して政府は補助金を出すで

あろうということで大いに期待してゐるわけでございますが、今回、予算にまだ国から補助がきていないわけですが、何か内示位あったかどうか、今後どうような見込めになつてゐるのか、お尋ねいたします。それからもう一つは、財政課長さん、予算の編成について繰り越し金を取り扱ひなんですか、一般会計もそうでありまゝだが、今上程されてゐる特別会計の中で国民健康保険を除きますと、あゝ三つは繰り越し金が財源になつております。

ところが、この繰り越し金、エ一方が小エ一でありまして、三十九年度、繰り越し金はすでに本年六月にははつきり数字がわかつてゐる。一応こういう場合、金額エ一て予備費か何かに繰り入れておいて、そうして補正財源として使用する場合は、この時を更正してやつた方がすつきりして

いるのではないかと思うんですが、この点についてどういふふうにお考えになっておるか。承りたいと思います。

もちろん、このやり方で法的には違法でないことはよくわかるんですが、その点についてお尋ねいたします。

・保健衛生課長（池田亮山君）お答えいたします。国保の前年度の赤字に対する国庫補助金でございます。

御承知のように新開紙上等にも出ておりますが、国庫の予備費を充用いたしまして四十億というものを処置しております。それに対するには、当市には、百七十億八万七千円至っております。

こゝがいわゆる前年度の赤字に対する特別補助金というところで参っております。その他、四十年年度の補助金といふことで、通常四回に分けまして、四半期に交付になるのでございますが、本年度は繰り上げ一部支給という

ような方法で取っておるわけでございます。このことは事務費につきましても、そのように取りはからわれております。給付費補助金におきましても、同じような形でございます。もうすでに給付費におきましても、四回ほど交付されております。

。財政課長（長谷川広治君）繰り越し金、予算編成上の技術と申しますか、お答え申し上げたいと思っております。私どもも考え方といいたしましては、繰り越し金というものは、できれば翌年度の予算に使用しないで、一応財政調整積み立てなり、何なりいたしまして、一時はな上げをして、そうして緊急的な場合にのみ使用いたさない。かように考えているわけでございますが、財源的にどうしてもやりくりができないというようなことが現状でございまして、その追加予算のとき、使用財源、或いは、

使用財源の認識等と比較いたしまして、その都度小出しと申しますか、必要といた財源を計上しているわけでございますが、金額的に少なければ一応予備費に計上いたしまして、そうして追加更正していくというようなことも考えられますが、金額的に大きなものをいきなり予備費にということも編成技術の上からいつて、ちよつと考えものでございますので、おっしゃるようになおして行なわけているわけでございます。

本趣旨としては好ましくないというふうに考えております。できるだけ財源的に余裕ができれば、前年度繰り越し金は、決算時期において財政調整なりに積み立てていくということが正しいわけでございます。

一六番（関武夫君）繰り越し金についての今の御説明は承知いたします。できればそれは使わずに積み立ててい

きたいという気持ちから小出てゐる。了承いたします。
それから、保険課長さん、前年度の赤字の金額はわかり
ませんが、四十年年度の総額というか、これはまだわからな
いんですか。つまり当初予算における千五百万円の問題
がありますので、我々は国からの補助金がでるだけ多いこ
とを望んでゐるわけですが、そういった額の点についてお伺
いいたします。

保健衛生課長（池田亮山君）国々補助金でございますが、
国保の場合、補助金の名目が多種にわたつてゐるわけ
でございます。事務費とか、給付費、財政調整補助
金、交付金、或いは世帯主の給付改善補助金、世帯員
給付改善補助金とか、現在う段階で予算通りくる
のか、予算を超へてくるのか、残らくるということとは、
はつきり申し上げられない段階でございます。

これは給付が完了の見込みが立ちます時期において改めて変更申請していく。現在交付されておりましたものは当初に申請したままの形で内渡りという形を取らしておる。一番最後に申請したものが年度内に交付される。そうしてなお決算の終りまゝのときに精算精算申請をいたしましたときに翌年度に交付未済分が交付になってくるという形になっております。

私たちの見込みとしては、千五百万円、そのまま一般会計からもうわけなければならぬ状態ではなかろう。その間には幾らかずつせばまっていくだろうということと言えるところです。これは全国市長会、あらゆる機関を通じて補助金の要請をしてゐる。着々その実現可能な方向に向つてきてゐるような情勢も報も聞いております。

今うところははつきりした結論は出ていない。

一六番(関武夫君)ただ今の御答へ、何か明かると見通しの
ようなお話で、私たちも幾らか安心するようになる気が持にな
ってゐるわけでございますが、了解いたします。

二四番(島野茂樹郎君)上水道特別会計について一つだけ
お伺いしたいと思います。

備品費、小型自動車が十五万円計上されておりますけ
れども、十五万円で買える小型自動車、おそらく新車
ではないと思いますが、耐用年数その他はどの程度のこと
を考えているのか、もちろん使用の量によつても違ふと
思いますけれども、安いものを買つて、銭失ひにならぬか
なという懸念もござりますので、お伺いするわけです
けれども、耐用年数はどの位を考えているか、どの位
の大きさのものを買ふのか、そう二つについてお伺いいた
します。

・衛生施設課長（吉田耕一君）も答え申し上げます。

いろいろ専門家の御意見を伺いまして、大体三年程度充金だということなもので、その程度のものであると、いうようなことを伺ってある次第であります。なお大きさにつきまゝては、現在ゴミの小型トラックを使っておりますが、その車体よりちやうと小さい位のものが、ということになっておる次第でございます。

・二四番（鳥の野茂樹郎君）そうすると私も考えておった二十五万というのは、軽自動車の範ちやうに入るかと思つたんですが、そうではないということですか。

・衛生施設課長（吉田耕一君）そうではなく、その上の普通用小型トラックと申しますか、そういうふうなもので考えておるわけでございます。

・二四番（鳥の野茂樹郎君）普通用小型トラックが十五万円

で買えて、一かも、三年も使えるということには、本當に結構なことだと思ひますけれども、先ほども、新車で使えなくなつたというお話も出たわけでござりますので、こゝは、本當に「安もう買いう錢失い」にならなければ結構だと思ひますけれども、何か不安がありますので、お聞きしたわけでござります。新車の例にならぬように、やつていただきたい。かように要望して質問を終わります。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）御質疑なしと認めます。

本案は討論省略原案通り可決いたします。御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（田中祿郎君）異議なしと認めます。よつて本案

は、原案通り可決されました。

おはかりいたします。

本定例会に付議された事件はすべて議了いたしました。
た。よつて会議規則第七条の規定により本日はもつて
閉会いたしますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よつて本
定例会はこゝにて閉会することに決まりました。

午後七時二十分 閉会

本日の会議に付いた事件

一 議事日程に同ト

之席議員

吉田 勇治郎

小柴 孝

田中 祿郎

望月 照正

石井 正

志村 信作

関 武夫

西村 真次

保科 忠夫

君塚 喜三

島野 茂樹郎

鈴木 正一郎

館石 伝蔵

秋山 六三郎

辻田 実

菊井 敏博

小沢 恵太郎

黒川 佐太郎

藤田 好治

江田 徳太郎

中村 省吾

萩生田 七郎

鈴木 孝

鳴田 繁

山田 教 宇

鈴木 市 蔵

安藤 亀 吉

三 沢 節

山 本 昇

松 本 藤 太 郎

欠席議員

田 村 源 治 郎

安 西 益 男

安 沢 徳 順

高 橋 文 治

山 口 康

出席説明者

一、第一日目と同じ

出席事務局取員

一、第一日目と同じ

昭和四十年九月二十九日

右会議の次第を録しニ署名す。

館山市議会議長

田中 祿郎

同 署名議員

吉田 勇治郎

同

松本 忠太郎

